西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
旧石器 （洪積 Ⅱ期 前20,000 年頃						熱海市泉地区の丘陵地にナイフ形石器を持った人々が生活を始める（大越遺跡）
				無土器文化に属する石器を持った人々が生活を始める（海老山遺跡）		
Ⅲ期 前15,000 年頃				鍛冶屋産の黒曜石で石器の生産が始まる		
縄文 （沖積 草創期						土器が出現し、弓矢が登場
早期				[この時期の遺跡] 海老山遺跡・尾崎山遺跡・金井堂遺跡・三本松遺跡・出雲台遺跡が存在した 海老山遺跡（押型文をもつ土器） 他四遺跡（尖底土器）		竪穴住居が造られ、集落が形成される
前期				[この時期の遺跡] 海老山遺跡・尾崎山遺跡・尾崎遺跡・金井堂遺跡・白沼田遺跡・出雲台遺跡・柏木沢遺跡		
中期				[この時期の遺跡] 向山遺跡・海老山遺跡・台当遺跡・尾崎遺跡・白沼田遺跡・出雲台遺跡		
						エジプト・メソポタミアなど古代文明発生する
後期 前2,000 年頃				黒曜石が採り尽くされた為、人々は他の地域に移動し湯河原の遺跡数減少する [この時期の遺跡] 孫込遺跡		土偶・石刀等の祭祀具が増加する この頃より気候が冷涼になる
晩期 前1,000 年頃						塩の生産が始まる
弥生 前期 前1,300 年頃						稲作と鉄器の使用が始まる
中期 前100年 頃				[この時期の遺跡] 嶽の山遺跡		各地に規模の大きな農作集落が出現 方形周溝墓からなる墓地が形成される
57	垂仁	86				倭奴国王、中国後漢に使いを送り、金印を授かる
						キリスト教が広まる
後期						ローマ帝国が栄える
239	神功皇后	39			6	邪馬台国女王卑弥呼、中国魏に使者を送る
						中国大陸で魏・呉・蜀が覇を争う
古墳 中期 400年頃				[この時期の遺跡] 竹の花遺跡		
478	雄略	22				倭国王武、中国宋に使いを送る
後期 500	武烈	2		[この時期の遺跡] 八雲里古墳・船岡横穴古墳		

鍛冶屋産の黒曜石

竹の花遺跡の出土品

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
538	宣化	3				仏教が百済から伝わる 「522年伝来説もあり」
589	崇峻	2				中国に隋が興る
618	推古	26				中国に唐が興る
646	大化	2			1 ・ 1	「大化の改新」の詔
663	天智	2			8 ・ 28	「白村江の敗戦」
664	天智	3		五所神社本殿	この年	防人の制始まる
天智1年（662年） ～天智10年（672年）			この頃	宮下・五所神社創建		
672	天武	1			6 ・―	「壬申の乱」
694	持統	8	この頃	足柄郡、上・下に分割	この年	藤原京遷都
701	大宝	1			8 ・ 3	大宝律令が完成
					この年	相模・武蔵に国郡里制が施行される
710	和銅	3			3 ・ 10	平城京遷都
759	天平宝字	3		「万葉集」に「土肥の河内」の歌が収録される 万葉集　巻14東歌、第3,368首 あしがりの とひのかふちに いずるゆの よにもたよらに ころがいわなくに		
770	宝亀	1			この頃	「万葉集」が完成
781	天応	1			この年	富士山噴火
794	延暦	13			10 ・ 22	平安京に遷都する
797	延暦	16			11 ・ 5	坂上田村麻呂、征夷大将軍に任じられる
818	弘仁	9			7 ・―	「弘仁の大地震」（M7．9）
841	承和	8			この年	朝廷が伊豆国の地震に使者を派遣して救済
848	嘉祥	1			この年	伊豆国など飢饉となる
864	貞観	6			この年	富士山噴火、溶岩が本栖湖に流れ込む
899	昌泰	2			9 ・ 19	儁馬（しゅうま：野盗）の党が横行、相模国に足柄関、上野国に碓氷関を設置
900	昌泰	3			8　5	足柄関通過の法を定める
935	承平	5		万葉公園の万葉歌碑	2 ・―	「平将門の乱」（～天慶3年・940年）
953	天歴	7	この年	福浦・子之神社創建		
971	天禄	2	この年	門川・八幡神社創建		
1020	寛仁	4			3 ・―	大江公資、相模守として妻相模(乙侍従：中古三十六歌仙)とともに任地相模国に下向
1051	永承	6			この年	「前九年の役」（～康平5年・1062年）
1060	康平	3	この年	五所神社社家荒井刑部実継、源義家奥羽征討の際、軍功をたてる		
1083	永保	3			3 ・―	富士山噴火
					この年	「後三年の役」（～寛治元年・1087年）
1086	応徳	3			11 ・ 26	白河上皇、院政を開始
1108	天仁	1	この年	城堀・産土八幡神社創建		

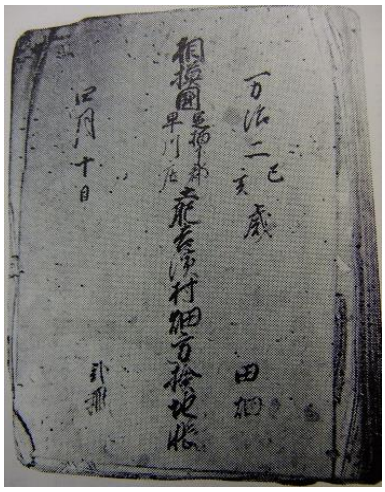
西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1120	保安	1	この頃	村岡常宗の子・宗平が中村荘の荘司となり、中村氏を名乗る		
1150	久案	6	この頃	宗平の子・実平が早川荘の在地領主となり荘内に土肥郷を開発し郷司となる。土肥次郎実平を名乗る		
1156	保元	1			7 ・ 10	「保元の乱」
1159	平治	1			12 ・ 9	「平治の乱」
1160	永暦	1			3 ・—	源義朝一家殺される 三男頼朝、伊豆蛭ヶ小島に流刑 九男義経、鞍馬で出家
1167	仁安	2		土肥次郎実平の木像	2 ・ 11	平清盛、太政大臣に任ぜられる
1180	治承	4	8 ・ 23	頼朝、石橋山で大庭景親と戦い敗れ、土肥椙山に逃れる	8 ・ 17	源頼朝、伊豆で挙兵
					8 ・ 28	頼朝が真名鶴崎（真鶴崎）から船で安房（千葉県）に渡る
					8 ・ 29	頼朝、実平らを伴い猟島に着く
					10 ・ 16	頼朝は、平推盛を総大将とする軍を迎え討つため鎌倉を発つ
					10 ・ 20	「富士川の戦い」
1181	養和	1		しとどの窟	2 ・ 4	平清盛（64）没する
					この年	「養和の飢饉」
1184	元暦	1	1 ・ 20	実平、備前・備中・備後の惣追捕使に任命される	2 ・ 7	「一ノ谷の戦い」
			2 ・ 7	実平、一ノ谷の合戦で義経に属し戦う		
			2 ・ 18	頼朝、実平らに播磨など5か国の惣追捕使を命ずる		
			3 ・ 25	実平、備中の国務を行う		
			この年	吉浜・稲荷神社創建		
1185	文治	1	2～3	義経を総大将に屋島、壇ノ浦合戦 実平ら一族、活躍 「平家滅亡」	2 ・ 19	源義経、讃岐屋島で平氏を破る 「屋島の戦い」
			11 ・ 19	実平、上洛する	3 ・ 24	平氏、長門壇ノ浦で滅亡する 「壇ノ浦の戦い」
			この年頃	実平、長門惣追捕使（長門国守護職次第）に任ぜられる	11 ・ 29	源頼朝に、地頭（守護）の設置が認められる 「文治の勅許」
1189	文治	5			4 ・ 30	源義経、平泉にて藤原泰衡の襲撃を受け殺される
					9 ・—	頼朝、奥州藤原氏攻撃。藤原氏滅びる
1191	建久	2	この年	実平、羽黒山黄金堂の普請奉行となる		
1192	建久	3			3 ・ 13	後白河上皇（66）没する
					7 ・ 12	頼朝、征夷大将軍に任ぜられる
1193	建久	4		頼朝、実平に命じて羽黒山麓の手向に黄金堂を建立させる （建久3年：1192年～建久4年：1193年） この頃実平逝去する	5 ・ 28	曽我祐成・時致兄弟、工藤祐経を討つ
1195	建久	6			3 ・ 12	東大寺供養

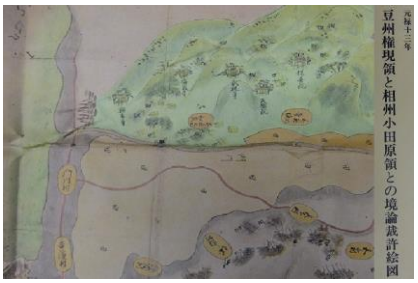
西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1199	正治	1	10・28	土肥惟平、曽我祐綱らの御家人66人連署し、梶原景時の排斥を謀る	1・13	源頼朝(53)没する 26日に子頼家が跡を継ぐ
1200	正治	2	1・13	小早川遠平、幕府垸飯を沙汰する		
1204	元久	1			7・18	頼家(23)、伊豆修善寺で殺される
1213	健保	1	5・2 ～ 3	和田義盛の一党、幕府を襲う 土肥惟平、和田義盛に加担する 「和田合戦」		
			9・19	惟平、義盛に加担の罪により斬首される [土肥惟平の斬首]		
			この頃	景平・茂平ら安芸に土着し、土肥氏の主力は安芸に移る		
1219	承久	1			1・27	源実朝(28)公暁に殺される
1221	承久	3			5・15	「承久の乱」
1231	寛喜	3			この年	諸国大飢饉「寛喜の飢饉」
1232	貞永	1			8・10	北条泰時、「御成敗式目(貞永式目)」を制定
1246	寛元	4			3・23	北条時頼、執権に就任する
1260	文応	1	12・1	宗尊親王、土肥郷に宿す 土肥当主 土肥左衛門尉維時、歓待する		
1268	文永	5			3・5	北条時宗、執権に就任する
1274	文永	11			10・20	「文永の役」:元・高麗軍、博多に上陸
1281	弘安	4			6・6	「弘安の役」:元・高麗軍、博多湾に侵入
1297	永仁	5			3・6	幕府、御家人の質券売買地の取戻しに関する法を定める:「永仁の徳政令」
1304	嘉元	2	7・13	城願寺に石造五層塔造立される		
1307	徳治	2	この頃	土肥三郎左衛門尉、土肥郷を支配		
1323	元亨	3	10・	北条貞時十三回忌に当たり、土肥山から材木が提供される		
1324	正中	1			9・19	後醍醐天皇の討幕計画露顕 「正中の変」
1331	元弘 (北朝) 元徳	1 3			5・5	幕府、日野俊基・文観らを捕える 「元弘の乱」始まる
1332	元弘 (北朝) 正慶	2 1			3・7	幕府、後醍醐天皇を隠岐に配流する
1333	元弘 (北朝) 正慶	3 2	5・—	新田義貞、鎌倉を攻める 土肥氏、三浦義勝の軍勢に加わり、義貞の陣へ参じる	5・21	新田義貞、鎌倉を攻める。 北条高時以下、東勝寺で一族自殺 「鎌倉幕府滅亡」
1335	建武	2	11・20	新田義貞、足利直義の軍勢と三河国矢作川で戦う。 土肥氏、直義軍に加わり戦う		
1336	延元 (北朝) 建武	1 3			12・21	後醍醐天皇、吉野へ潜幸「南北朝分裂」 南北朝内乱始まる
1338	延元 (北朝) 暦応	3 1			8・11	足利尊氏、征夷大将軍に任じられ、室町幕府を開く

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1351	正平 (北朝) 観応	6 2			11 ・ 7	南朝、北朝を廃する「正平一統」
1352	正平 (北朝) 文和	7 1	この年	土肥次郎兵衛入道ら土肥一族、足利方に付き武蔵国にて新田義興らの軍勢と戦う		
1361	正平 (北朝) 康安	16 1	11 ・―	土肥掃部助ら小田原宿にて鎌倉管領執事畠山道誓らを襲う		
1386	元中 (北朝) 至徳	3 3	10 ・―	城願寺に正岩順公の供養塔造立される		
1391	元中 (北朝) 明徳	8 2			12 ・ 30	「明徳の乱」 幕府、山名氏清(48)らを山城内野で討つ
1392	元中 (北朝) 明徳	9 3			10 ・ 5	南北朝合一される
1416	応永	23	10 ・ 6	「上杉禅秀の乱」 土肥氏、氏憲(禅秀)に組し持氏と戦い敗れる 土肥実綱(土肥氏)小田原から追われる		
1417	応永	24			1・末～3・頃	[大森氏の小田原進出] 大森氏、上杉禅秀の乱の勲功賞として、土肥氏・土屋氏の没収地を与えられ小田原を本拠とする
1418	応永	25			この年	大森頼春、小田原城を築城
1428	生長	1			8～9	「正長の土一揆」
1441	嘉吉	1	この年	小田原城主大森氏頼が泉の豪族佐藤信頼などと共に保善院を曹洞宗に改め安叟を請じて開山	6 ・ 24	「嘉吉の乱」
1442	嘉吉	2			この年	伊豆大島噴火
1443	嘉吉	3		嘉吉3年の銘を持つ梵鐘を保善院が所蔵		
1449	宝徳	1			この頃	大森氏が相模全域に勢力を振るう
1451	宝徳	3	この年	保善院の末寺として天寿院が宮下から泉坂寺に移転し天室昌運により曹洞宗に改宗され開山される:開基は二見加賀之助重行		
1456	康正	2		 吉浜・英潮院	この頃	大森頼春父子、小田原城を本拠とする
1467	応仁	1			5 ・ 26	「応仁の乱」始まる
1477	文明	9			11 ・ 11	「応仁の乱」終わる
1493	明応	2			この年	北条早雲、伊豆へ侵略する [早雲の伊豆侵攻]
1495	明応	4			9 ・―	早雲、小田原城を落とす (異説に明応3年、同4年2月)
1504	永正	1	この年	吉浜・英潮院創建		
1506	永正	3	この年	土肥地方の宮下・宮上で北条早雲により検地が実施される		
1532	天文	1	この年	福泉寺、保善院四世帰雲元守によって再興され曹洞宗となる	6 ・ 20	「一向一揆」起きる

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1543	天文	12			8・25	ポルトガル船、種子島に漂着し、鉄砲を伝える
1549	天文	18	11・27	吉浜・熊野社創建	7・3	フランシスコ・ザビエル、鹿児島に到来しキリスト教を伝える
1555	弘治	1			7・19	上杉謙信、武田信玄と信濃川中島に戦う
1560	永禄	3	11・—	吉浜・熊野権現創建	5・19	「桶狭間の戦い」 織田信長、桶狭間で今川義元を討つ
1568	永禄	11			9・26	織田信長、足利義昭を奉じて入洛
1571	元亀	2			9・12	織田信長、延暦寺を焼き討ちする
	元亀年間			鍛冶屋・五郎神社創建		
1573	天正	1	この年	福浦・醍醐院、僧繁翁が創建し保善院六世我国禅甫を勧誘して開山	7・18	室町幕府滅亡
1575	天正	3			5・21	「長篠の合戦」
1582	天正	10			6・2	「本能寺の変」
					6・13	「山崎の合戦」 豊臣秀吉、山城山崎に明智光秀を破る 光秀、土民に殺される
1585	天正	13			7・11	秀吉、関白となる
1586	天正	14	11・—	この頃　吉浜・熊野社創建		
1587	天正	15			6・19	秀吉、「バテレン追放令」を発する
1588	天正	16			7・8	「刀狩り令」発令
1590	天正	18	4・—	豊臣秀吉、保善院へ禁制を与える	7・13	小田原攻め［北条氏滅亡］ 豊臣秀吉、小田原城に入城。徳川家康に伊豆国を含む関東8か国を与える
			この年	吉浜・吉祥院、僧空山が開基創建	7・13	大久保忠世、豊臣秀吉から小田原城主を拝命
1591	天正	19	閏1～2	小田原藩主大久保忠世、領内足柄上・下郡に検地を実施 「天正検地」	1・5	秀吉、朝鮮出兵を命じる
1597	慶長	2			1・14	「慶長の役」始まる
1600	慶長	5			9・15	「関ヶ原の戦い」
1603	慶長	8			2・12	徳川家康、征夷大将軍となり江戸に幕府を開く
1604	慶長	9			12・16	「慶長地震」（M7．9）、犬吠埼から九州の太平洋岸に激しい津波
1605	慶長	10	2・—	吉浜・宗徳院、僧梵舜が開基創建	4・16	家康、征夷大将軍を辞し、秀忠が2代将軍となる
1609	慶長	14	10・26	大久保長安、相模土井山（土肥＝湯河原）での鉱脈調査を拝命する	この年	小田原藩、年貢徴収方法を有毛検見制から春免（土免）制に変更する
1611	慶長	16			5・	小田原藩主大久保忠隣、翌年3月にかけて酒匂川右岸地域の検地を実施 ［慶長検地］
1612	慶長	17	3・—	入谷村で検地を実施		
1614	慶長	19			1・22	小田原地方に地震
					8・28	東海道、関東大風雨、江戸も大被害
					9・11	この頃幕府、箱根路を廃止し足柄路を通行させる

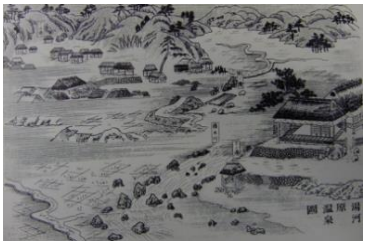
西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1614	慶長	19			10・ 1	「大坂冬の陣」始まる
1615	元和	1			4・ 6	「大阪夏の陣」始まる
					7・ 7	幕府、「武家諸法度」を制定:「元和令」
					7・ 17	幕府、「禁中並公家諸法度」を制定
1632	寛永	9			11・ 23	幕府年寄（老中）下野国真岡城主稲葉正勝、小田原城主となり(8万5千石）箱根の関所の警護を命じられる
1633	寛永	10			1・ 21	「小田原大地震」（M7．1） 未明、関東に大地震
1634	寛永	11			1・ 25	小田原藩主稲葉正勝江戸で没し（38歳）、子、正則遺領跡を継ぐ(12歳）
1635	寛永	12			6・ 21	幕府、外様大名の参勤交代を定める
1637	寛永	14			10・ 25	「島原の乱」起こる
1639	寛永	16			7・ 4	ポルトガル船の来航を禁じ鎖国政策完成
1640	寛永	17			この年	幕府宗門改役を置き、寺請・宗旨人別帳を作らせる
						小田原藩、3月以降東筋・中筋の村に地詰検地を、翌年3月以降西筋の村に地詰検地を実施「寛永の地詰検地」
1641	寛永	18	9・	入谷村で検地、検地帳を宮上・宮下に分冊:村切りの第1段階		諸国大凶作となる:「寛永の大飢饉」始まる
1642	寛永	19			5・ 9	幕府、譜代大名にも参勤交代を命じる
1643	寛永	20			3・	幕府、「田畑永代売買禁令」発令
					8・	幕府、「田畑勝手作禁令」発令
1644	正保	1			12・ 25	幕府、諸大名に郷村高帳・国絵図・郡絵図・諸城図を作り提出を命ずる
1645	正保	2			4・ 18	小田原藩、相模国絵図作成を始める
					9・ 15	小田原地方に地震
1646	正保	3	この頃	入谷村、検地帳で宮上・宮下に分離 :村切り第2段階、村高と名主を分け表記		
			この頃	国絵図に土肥入谷、「ヨシハマノ内鍛冶屋」の表記。枝村であることを記す		
				国絵図作成後、程なく吉浜村から鍛冶屋村を分離する形で村切り		
1649	慶安	2	5・ 24	稲葉正則、領内の主要寺社に対し寺領安堵状を発給、土肥村保善院も含まれる	6・ 20	関東に大地震、江戸城の石垣破損
1651	慶安	4	6・ 15	小田原藩、西郡 （足柄上・下）の人改めを行う	7・ 23	「慶安の変」 由比正雪らの幕府転覆計画発覚
			6 26	土肥筋の川除け・津川橋の普請が始まる		
1654	承応	3			4・ 14	小田原藩主稲葉正則、この年の不作により飢餓に備え麦等の貯穀え命じる
					6・ 18	小田原藩、領内村に御救い米を支給する
					12・ 13	小田原藩、郷中条目12条と名主・組頭への心得を触れ渡す
1655	明暦	1			9・ 4	小田原藩、風水害地震などの心得を申し渡す

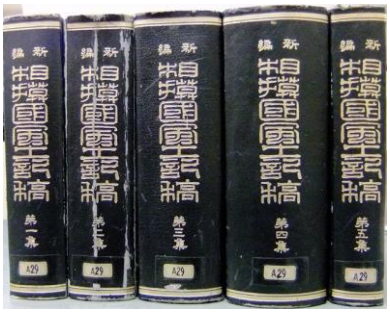
西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1657	明暦	3	10・—	小田原藩、(検地に備え)足柄上郡・下郡の村々に以後3年間の年貢定免を通達「定免制」	1・ 18	～19日、「明暦の大火」江戸城本丸二の丸焼失し、焼死者10万人
1659	万治	2	2～	小田原藩、酒匂川右岸上流域(南足柄市)・下流域(小田原市)・土肥筋(箱根町・湯河原町・真鶴町)の西筋村々に検地を実施		
			4・ 2	小田原藩、足柄下郡土肥吉浜村検地開始10日完了		
1661	寛文	1	4・ 29	小田原城備蓄の幕府御用米2,500石、下郡真鶴・吉浜村両村船で江戸へ廻送し、5月10日着		
1662	寛文	2			2　22	幕府、若年寄を再置する
1664	寛文	4			4・ 5	小田原藩領地目録、下郡は66村2万1,853石
					この年	小田原藩、領内に鉄砲改めをする :村足軽計318人・小頭14名
1665	寛文	5			2・ 3	この日以降幕府領諸代官、村々を検地する「寛文検地」
					8・ 8	幕府、「諸社禰宜・神主法度及び諸宗寺院法度」を下す
1666	寛文	6			8・ 25	箱根(深良)用水着工
1669	寛文	9			2・ 18	幕府、江戸枡を廃止し江戸市中の量制を京枡に統一する
1670	寛文	10		万治2年の吉浜村検地帳	4・ 25	箱根(深良)用水、通水始まる
1672	寛文	12			閏6・ 25	幕府、外国船渡航・キリスト教を禁止する
1673	延宝	1	8・ 9	東海地方より相武一帯大風雨、小田原城付領大被害、藩は修復困難な者に救済を命じる	6・—	幕府、持高20石以下の名主、10石以下の百姓の分割(分地)相続を禁止する「分地制限令」
1674	延宝	2			2・—	貨幣・キリシタン・毒薬・宿場駄賃・人身売買禁止等の高札を諸所に立てる
					この年	酒匂川船渡しから徒渡しとなる
1675	延宝	3			この年	全国で大凶作
1676	延宝	4	8・ 12	小田原地方に大風雨	7・ 7	幕府、関東八か国の鉄砲改を実施
1677	延宝	5			3～	幕府、西国幕府領の総検地「延宝検地」
1680	延宝	8			5・ 8	4代将軍徳川家綱没(40歳)
					8・ 23	館林藩主、徳川綱吉、5代将軍となる
1682	天和	2			12・ 28	江戸で大火「振袖火事」、死傷者3,500人
1683	天和	3		17世紀後半には湯河原地方は7か村、荒井(後の福浦)、吉浜、鍛冶屋、門川、堀之内、宮上、宮下が成立	閏5・ 27	小田原藩主稲葉正則、隠居(没、元禄9年9月6日、74歳)、子、稲葉正往が跡を継ぐ
1686	貞享	3	この年	新井村(荒井村)、藩主により福浦村に改名	1・ 21	老中大久保忠朝、下総国佐倉より相模国小田原に転封(10万3,129石余)
1687	貞享	4			1・ 10	幕府、捨て牛馬禁止令(最初の「生類憐れみの令」)を発令する
					12・—	小田原藩、領内に「郷中条目(31か条)」を触れる
1689	元禄	2			1・ 29	小田原藩、「生類憐れみの令」細目13条を村々へ触れる

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1689	元禄	2			3～	松尾芭蕉、弟子曽良とともに「奥の細道」の旅に出る
1695	元禄	8	この年	吉浜村、岩沢山の上に石丁場を掘り始める		
1698	元禄	11	この年	小田原藩領門川村と伊豆山領との間で国境論が起こる		
1699	元禄	12			11・15	小田原藩、領内町民・農民の贅沢な衣服・乗物について禁止規定を出す
1700	元禄	13	6・17	宮下村、元禄国絵図作成に当たり村の由緒を書上げ郡奉行に提出する。稲葉時代寛永検地の際に五所大明神を境に上下に二分、正保3年に正式に分村		
			10・4	伊豆山権現領と小田原藩領との境論争について、幕府の裁決が出る。 論所は権現領と認められるも年貢は従来通り門川村から藩へ治めることとする		
1702	元禄	15		 伊豆山権現領と小田原藩領との境論裁許絵図	12・15	赤穂浪士、吉良上野介義央邸に討ち入る
1703	元禄	16			11・22	「元禄大地震」（M8．1）
					11・29	小田原藩主大久保忠増、地震被害のため幕府より1万5,000両拝借
1705	宝永	2			2～8	伊勢神宮へのおかげ参り流行
1707	宝永	4			10・4	「宝永地震」（M8．4～8．7）
					11・23	武相駿豆大地震、富士山大噴火 「宝永の大噴火」
					この年	小田原城再建完成，先年（宝永2年）12月天守閣再興の棟札が作成されている ：[新版年表小田原の歴史によると再建完成は宝永2年]
1708	宝永	5			閏1・18	小田原藩領内村に「郷中条目」が申し渡される
1709	宝永	6			1・10	5代将軍徳川綱吉没（64）
					5・1	徳川家宣、6代将軍となる
1711	正徳	1	4・—	吉浜村と岩村との岩沢山石丁場を巡る争論、門川村名主らが仲裁する（1回目）		
			5・—	小田原藩、吉浜に、キリシタン禁制と訴人に関する規定の高札を立てる		
1712	正徳	2			10・14	6代将軍徳川家宣没（50）
1713	正徳	3			4・2	徳川家継、7代将軍となる
					9・12	大久保忠方、父忠増（7月25日没）の後を継ぎ小田原藩主となる
1716	享保	1	10・—	下郡岩村、岩沢山石丁場の口上書(吉浜村との争論、第2回目）を藩に提出	8・13	紀伊藩主徳川吉宗、8代将軍となる 「享保の改革」に着手する
1717	享保	2	この年	鍛冶屋村の「新田帳」によると、25か所の小字に計35筆の新田存在		 吉浜村「五人組帳」
1720	享保	5	この年	吉浜・英潮院、7世祖印柏栄が建立		
1721	享保	6	3・11	吉浜・鍛冶屋村と岩・真鶴・福浦村（湯河原町・真鶴町）との間の苅敷場争論について代官裁許により5か村の入会場19か所が設定される		
1732	享保	17	8・—	吉浜村、「五人組帳」提出。同村23組116人が村役人に宛てて連印して提出する	11・19	小田原藩主大久保忠方、10月3日没、大久保忠興、家督を相続し小田原藩主となる

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1732	享保	17			この年	「享保の飢饉」
1733	享保	18			3・—	藩主代替わりにつき領内に寺社方条目が再発令され、追加条目も触れ出される
1742	寛保	2			3・—	幕府、判例法典「公事方御定書」を完成
1745	延享	2			11・　2	徳川家重、9代将軍となる
1747	延享	4	3・28	鍛冶屋村、「明細表」を書上げる 貞享3(1686)年と比較し家数が1．5倍の82軒に増加		
1749	寛延	2	5・29	下郡岩村、同郡吉浜・鍛冶屋村と石丁場かうじ山の支配を争う(3回目) この日、藩より岩村と吉浜・鍛冶屋村との石丁場の争いについて裁許状が下る		
1753	宝暦	3			11・　8	幕府、「倹約令」を発する
1760	宝暦	10			9・　2	徳川家治、10代将軍となる
1763	宝暦	13			9・10	小田原藩主、大久保忠興致仕し(翌年10月29日没)、その子大久保忠由跡を継ぐ
1764	明和	1			この年	小田原藩、藩財政窮迫により中級以下の家臣の俸禄は毎月米3俵となる
1765	明和	2	12・—	吉浜村、村の生活に関する申合せをする ：火の用心、身分不詳の者は泊めない、喧嘩・博打をしない、会合には五人組申し合わせ出席するなど		
1769	明和	6			11・24	大久保忠顕、父忠由(10月8日没)の跡を継ぐ
1770	明和	7	4・—	吉浜村に、強訴・徒党・逃散禁止とその訴人に関する規定の高札が立つ	4・16	幕府、徒党・強訴・逃散を禁じ、密告者を褒賞する高札を全国に立てる
1771	明和	8	この頃までに	3筋に分割していた小田原藩城付地を幾つかの組合村に編成。湯河原は、西筋の片浦筋土肥筋組合(早川・石橋・米神・根府川・江の浦・岩・真鶴・福浦・吉浜・鍛冶屋・堀之内・宮下・門川・宮上の14か村で小田原以西の海岸付村々全てを含む)に属する	4～7	伊勢神宮へのおかげ参り盛んに行われる
1774	安永	3			8・—	杉田玄白ら、解体新書を刊行
1775	安永	4			4・19	～1783年9月3日　アメリカ独立戦争
					閏12・—	日光社参につき人馬差出しの触れ書が廻る
1776	安永	5			7・　4	アメリカ独立宣言
1782	天明	2			7・15	小田原から大山にかけ80年来の大地震 小田原城の櫓破損、士庶の家屋1,000軒破壊等
					この年	小田原藩、分限帳作成
1783	天明	3	5・—	鍛冶屋村、飢饉救済のため小田原藩より拝借金12両余を20年賦で受領 翌4年2月・6月も同様	この年	「天明飢饉」 関東・東北地方、冷害で大飢饉となる
1784	天明	4	この年	相州・豆州の櫁花の江戸仕入問屋仲間が14軒に定められる	12・—	小田原藩、米切手通用を復活させる
1785	天明	5			1・—	小田原藩、小田原城天守閣工事のため、領内村々へ冥人足(村高100石につき、10人)と冥加銭の差し出しを命ずる
1786	天明	6			8・25	10代将軍徳川家治没　(50) 公表は9月8日

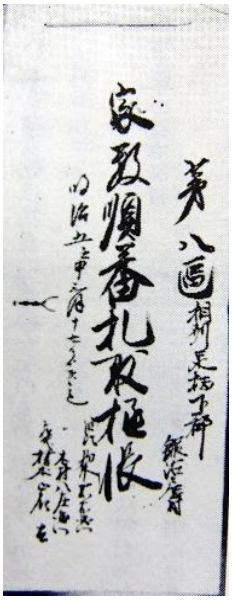
西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1786	天明	6			10・—	小田原藩、城下で村々の商人は販売品目・量につき、城下商人に従属することを命じる
1787	天明	7			4・ 15	徳川家斉、11代将軍となる
					5・—	「天明の打ちこわし」：打ちこわしが大阪での勃発を契機に全国に広がる
					6・ 19	松平定信、老中首座となる 「寛政の改革」始まる
					7・ 23	二宮金次郎（尊徳）、栢山（小田原市）に生まれる
1792	寛政	4	12・—		3・—	幕府、小田原藩に海岸防備を命ずる
					9・ 16	ロシア使節ラックスマン、漂流民大黒屋光太夫を送り根室に入港、通商を求める
1795	寛政	7	7・—	吉浜村神主鈴木大進が牛頭天王神事について伊豆山権現と争う		
1796	寛政	8	この年	福浦村を除く6か村の囲籾の量は65俵 （吉浜村15俵・門川村11俵・鍛冶屋村13俵・堀之内村5俵・宮下村13俵・宮上村8俵）	1・ 18	小田原藩主大久保忠顕致仕し（享和3年没）、子大久保忠真、跡を継ぎ小田原藩主となる
					この年	松平定信の白河藩時代の改革の一つ（凶作に備え貯穀の奨励）に倣い、深刻な飢饉を経験もあって小田原藩も郷蔵」の設置と「囲籾」の制を採用する。小田原藩では筋のような小組合を単位として実施し、囲籾は年貢米の中から預かり、上納命令があり次第、摺立てて上納することを藩役人に請け合う
1797	寛政	9			この年	小田原藩、領内村の囲い籾を停止する
1798	寛政	10	10・—	宮上村で鉄砲改帳を出す		
1800	寛政	12	12・—	鍛冶屋村、幕府の五街道分間絵図仕立てのため勤高・道程を書上げる		
1801	享和	1			3・—	幕府、伊能忠敬に関東・陸奥の沿岸測量を命じる
1802	享和	2	6・ 29	夜、鍛冶屋村で大雨による水田被害		
1803	享和	3			10・ 1	伊豆大島噴火
					11・—	小田原藩主大久保忠真、「御条目」を発し村々へ質素倹約・農業出精を説き、14条を申し渡す
1805	文化	2	4・—	岩村の者が吉浜村・鍛冶屋村の稼ぎ山へ新道を開削し争論となる		
1806	文化	3			1・ 26	幕府、ロシア船への「薪水給与令」を発布
					10・—	小田原藩、小田原宿がさびれ、その対策として飯盛女を置くことを許可
1807	文化	4	この年以降	鍛冶屋・吉浜両村と宮上・宮下・門川・堀之内4か村とが、入会山での炭焼を巡り争論を起こす（解決は天保1年・1830年）		
1808	文化	5			4～閏6	間宮林蔵等、樺太探検
1814	文化	11			2・ 1	小田原藩、衣類・婚礼・神事祭礼における質素倹約を郷中へ申し渡す
					12・—	小田原藩、国産奨励のため大坂より楮苗木を仕入れ、以降5年間山間村へ植え付けを指導する
1816	文化	13			1・ 7	幕府、下田に異国船が漂着したため品川～下田間の街道筋に御用取り継ぎを命じる

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1817	文化	14	1・12	仙洞御所庭園の池の敷石として領内吉浜村より石2,000俵を献上する 「仙洞御所へ一升石献上」		 仙洞御所庭園の池の敷石
1817	文化	14	10・5	14日にかけて小田原藩、大島沖にイギリス船渡来につき土肥筋に出兵する ≪最初の海防出兵≫		
1818	文政	1	11・1	小田原藩、治安の確立、藩支配の浸透を目的に領内筋に郡中取締役（有力農民10名）を設ける。土肥筋は宮上村又右衛門		
1819	文政	2	6・—	小田原藩、組合取締世話役を任命し、倹約を命じる	4・—	小田原藩領内に50か村の困窮村があり、救済に藩が難村御救融通講（500両）を設け村々に加入を命じる
			7・—	小田原藩が藩主大久保忠信が老中就任の際に領民に老中を勤める藩として他の模範となるよう命じる 土肥筋組合村々は、封建道徳の強化励行と日常の倹約励行を具体的に20項目にわたって申し合せる	5・—	小田原藩、難村助成目論見趣法を領分村々へ下す
					7・8	幕府、米価下落・諸品高値につき全国に諸物価引下げを命じる
1821	文政	4	6・3	吉浜村神主鈴木大和が雨乞いの祈祷をする	7・—	伊能忠敬等の実測をもとにした「大日本沿岸輿地図」完成
1822	文政	5		 雨乞いの面	1・—	小田原藩主大久保忠真、小田原城三の丸（本町小学校の地）に藩校の集成館を建てる
1824	文政	7			この年	シーボルト、「鳴滝塾」を設ける
1825	文政	8			2・18	幕府、「異国船打ち払い（無二念打ち払）令」を発する
1827	文政	10	7・—	福浦村漁民、笠島根通字ばんば浦瀬の鼻で鰹漁の網掛けを巡り漁場の権利について真鶴村と争う		
1828	文政	11			8・11	「シーボルト事件」
1830	天保	1	4・—	吉浜・鍛冶屋両村と宮上・宮下・門川・堀之内の4か村とが山論につき内済する	3～8	おかげ参り（伊勢参り）流行 430万人が伊勢神宮に参拝する
1831	天保	2			4・10	幕府、百姓・町人の過分の葬儀・壮大な墓碑・院号・居士号を厳禁
					5・2	小田原藩、日光普請御用につき、領内村に村高100石につき5両の御用金を命じる
1832	天保	3	2・—	吉浜村神主が臼挽き歌を書き記す	この年	諸国凶作
			この年	鍛冶屋村明細帳を書上げる 戸数80軒、名主不在、組頭3、本百姓34、無田42、店借1		
			9・—	吉浜村・鍛冶屋村と根府川村・岩村との星ケ山の石切りを争い内済する		
1833	天保	4	10　—	福浦村明細帳を書上げる:「新編相模国風土記稿」の原史料として作成	9・—	米価高騰・米の買い占めに対し全国で騒動・打ちこわしが多発する
						長雨と低温で東北地方を中心に大凶作となる。「天保の飢饉」始まる
1834	天保	5			9・4	真鶴村で火災が発生し228軒を焼失する
					12・—	幕府、関東諸国に菜種栽培を奨励する
1835	天保	6			5・6	大久保忠真老中首座となる
				 天保期湯河原温泉写生図	9・5	幕府、100文銭「天保通宝」を新鋳する

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1835	天保	6				翌年にかけ大飢饉
1836	天保	7	8　—	天保8年～10年間、伊豆山から宮上村へ炭焼きにつき山林を年季売りする	9・ 21	「加茂一揆」
						春から秋にかけて多雨。8月に霜が降り晩稲ことに悪く、諸作物不良。全国で大飢饉となる「天保飢饉」
						天保の飢饉のため米等の穀物、野菜の値段が高騰。一揆打ちこわしが続発
1837	天保	8			2・ 19	大坂で「大塩平八郎の乱」起こる
					3・ 9	小田原藩主大久保忠真没。19日公表 5月6日嫡孫大久保忠愨跡を継ぐ
					9・ 2	徳川家慶、12代将軍となる
1839	天保	10			11・ 3	イギリス、清国林則徐のアヘン貿易拒否の回答を口実に戦火を開く 「アヘン戦争の勃発」
1841	天保	12			閏1・ 30	前将軍徳川家斉没(69)
					5・ 17	「天保の改革」の始まり
					10・—	幕府、「奢侈禁止令」を出す
					この頃	小田原藩、天保の改革による禁令(神事祭礼行事の謹慎・倹約令・ぜいたく品の売買禁止・時期はずれの野菜の促成栽培禁止・物価引下げ令)を出す
					12・ 14	幕府、十組問屋の解散を命じ、全国の株仲間・問屋・組合を禁止する
				「新編相模国風土記稿」	この年	「新編相模国風土記稿」完成
1842	天保	13			7・ 23	幕府、「異国船打払令」を廃止し、「薪水・食料給与令」を復する
					10・—	幕府、諸藩の専売制を禁じる
1843	天保	14			3・ 28	幕府、江戸への出稼ぎ人に帰郷を命じる「人返し令」
					4・ 1	二宮尊徳、藩領小田原に仕法組合を設立:報徳社の始まり
1844	弘化	1	9・	宮上村保善院と伊豆山権現とが山境について争論		
1846	弘化	3			この年頃	小田原藩、真鶴岬に砲台を築造する
1848	嘉永	1			3～4	異国船、日本海沿岸の各地に出没する
1849	嘉永	2	この年	福浦村「海底浅深書上帳」で海岸の長さ・海底の深さ・左右の隣村を報告	閏4・ 8	イギリス測量船マリーナ号浦賀入航、奉行会談・給水を求める。 小田原藩、真鶴・大磯・小田原浦へ出兵する
					閏4・ 12	イギリス測量船マリーナ号下田入航、韮山代官江川英龍が交渉する。 小田原藩、下田に708名を派遣する
1852	嘉永	5	4・—	湯河原地方、異国船警備のため人足13人と松明を負担、小田原藩は大番頭他350人ほど出勤	6・ 24	ロシア船メンチコフ号下田に来航、紀伊の漂流民を送るが下田代官所受入拒否。漂流民、伊豆中木村に放置される
					6・ 25	～7月15日。小田原藩、ロシア船渡来につき下田へ出兵する
1853	嘉永	6	6・ 4	～18日、小田原藩、ペリー艦隊来航に対し警備の軍勢を下田・小田原浦・大磯に急派、湯河原地方も村筒増員・人足の動員を受ける	2・ 2	関東～東海大地震(M6．7) 小田原城崩壊、死者79人、潰家2,200戸

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1853	嘉永	6			6・ 3	アメリカ東インド艦隊司令長官ペリー、フェルモア大統領の国書を携え浦賀沖に来航
					6・ 22	12代将軍徳川家慶没(61)
					7・ 18	ロシア使節プチャーチン、長崎に来航 8月19日　長崎奉行に国書を手渡す
					10． 23	徳川家定(30)、13代将軍となる
1854	安政	1	8・—	吉浜村、嘉永6年5月18日の出水による6月の石倉築立につき人足渡米を控える	1・ 16	ペリー艦隊7艘、浦賀に再来航し投錨する
			10・—	吉浜村、小廻船の造船につき注進する	3・ 3	幕府、「日米和親条約」締結 下田・箱館を開港
			11・—	吉浜村、「御献上ならびに御配り御用」として644個の蜜柑を1個2文で1貫340文の代金を受取る	6・ 25	幕府、箱館を直轄とし、箱館奉行を再置する
					8・ 23	長崎奉行、イギリス東インド・中国艦隊司令長官ジェームス＝スターリングと「日英和親条約」を締結。長崎・箱館を開港
					12・ 21	幕府、「日露和親条約」締結、下田・箱館・長崎を開港、エトロフ・ウルップ島間を国境、樺太を両国雑居地とする
1855	安政	2	6・ 18	吉浜村、高波襲来。田地流失・波除用石倉・家囲用石倉が崩壊、被害状況を示し見分を願出る	2・—	小田原藩、領内に倹約令を触れ出す
					10・ 2	「安政大地震」(M6．9) 江戸で大地震、江戸市中の倒壊家屋数万戸、市中の大半を焼く
					12・ 23	幕府、「日蘭和親条約」締結
1856	安政	3	8・ 25	台風により領内各地で家屋倒壊・高波等の被害が出る		
			8・—	吉浜村、25日の高波により家囲波除石倉・福浦道往還石倉打崩れ流失と届出る		
			12・—	吉浜村、「御献上ならびに御配り御用」としての蜜柑987個、1個2文で2貫54文の代金を受取る		
1857	安政	4	1．	前年8月25日の大風雨・水害による難渋者に、宮上村名主利兵衛が米5俵・百姓利右衛門が金3分と銭5貫700文を施す	5・ 26	下田奉行、ハリスと日米約定(下田条約)を締結 ：長崎開港・治外法権承認等9か条
			2．	吉浜村組頭彦兵衛、病身につき退役を願出る、後任は小百姓五郎左衛門(46歳)と報告する	8・ 29	幕府、「日蘭和親条約」を長崎で調印
			7．	吉浜村、初米上納の日程について20日・21日両日を願出る	10・ 21	ハリス、江戸城に登城、将軍徳川家定に謁見しアメリカ大統領ピアースの親書提出
			11．	吉浜村、年貢米350俵を郷蔵預りとする証文を出す		
1858	安政	5	1．	吉浜村、以前から口頭で報告していた前年夏に打崩流失した石倉の普請につき見分を書面にて願出る	4・ 23	井伊直弼、大老に就任
					6・ 19	神奈川で「日米修好通商条約」を締結
					7 5	「安政の大獄」始まる 一橋派の徳川斉昭・松平慶永ら謹慎処分
					7・ 6	13代将軍徳川家定没(35)
					7・ 11	「日露修好通商条約」締結

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1858	安政	5			7・ 18	「日英修好通商条約」締結
					9・ 3	「日仏修好通商条約」締結
					10・ 25	徳川家茂、14代将軍となる
1859	安政	6			5 28	幕府、6月以降、神奈川・長崎・箱館での5ヵ国（ロシア・フランス・イギリス・オランダ・アメリカ）との自由貿易を許可する
					10・ 27	幕府、幕府を批判する吉田松陰らを死罪にする
1860	万延	1			1・ 19	勝海舟ら遣米使節随行員、幕府軍艦咸臨丸で米国にむけ浦賀を出帆
					3・ 3	「桜田門外の変」、井伊直弼殺害される
1862	文久	2			1・ 15	「坂下門外の変」
					4・ 23	「寺田屋事件」
					8・ 21	「生麦事件」
1863	文久	3			5・ 10	「下関事件」
					7・ 2	「薩英戦争」
1864	元治	1	7・—	鍛冶屋村、浦賀で修理中の咸臨丸のため鎮守の森の楠8本を提供、代金は3割減に値切られる、堀之内村も3割減で1本を提供	6・ 5	「池田屋事件」
					7・ 19	「禁門の変」
					8・ 5	「下関戦争」
1865	慶応	1	12・ 24	小田原藩、組合取締役を勤める福浦村名主浦右衛門に苗字を許す		
1866	慶応	2			1・ 21	薩長同盟成立
					7・ 20	14代将軍徳川家茂、大坂城で没す(21)
					12・ 5	徳川慶喜、第15代将軍となる
					12・ 25	孝明天皇、崩御
1867	慶応	3	4・—	小田原藩、御宝塔用石材の土肥筋での切り出し御用を拝命する	1・ 9	睦仁親王（明治天皇）、即位
					10・ 14	徳川慶喜、「大政奉還」を上奏
					12・ 9	朝廷、「王政復古の大号令」を宣言し、徳川慶喜に辞官・納地を要求する
1868	明治	1	10・—	宮上村天寿院・福泉院・堀之内村城願寺・門川村潮音寺・吉浜村宗徳院・吉祥院・福浦村醍醐院、本寺保善院に曹洞宗の法度を順守・無籍の者を置かないことの2か条につき請状を差出す	1・ 3	「鳥羽・伏見の戦い（戊辰戦争）」始まる
				保善院	3・ 14	明治天皇、「五か条の誓文」を発布する
					3・ 15	新政府「五榜の掲示」を発し、徒党・強訴・キリスト教等を禁ずる
					3・ 28	新政府、祭政一致・神祇官復興を布告し、「神仏分離令」を発令する
					4・ 11	新政府軍、江戸城に無血入城し、徳川慶喜は水戸に退去する
					5・ 15	江戸上野で彰義隊が新政府軍と戦う「上野戦争」

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1868	明治	1			7・17	江戸を東京と改称
					8・23	～9月22日「会津戦争」起こる
					9・8	「明治」と改元、一世一元の制が定められる 『改元の詔書：改慶応四年為明治元年・一世一元以為永式』
					9・21	神奈川府を廃止し、神奈川県を設置、寺島宗則が県知事となる
1869	明治	2	1・18	神奈川県、高札取外しの回状を県下に出す	1・20	箱根関所廃止
					1・20	「版籍奉還」開始
					7・17	京都・東京・大阪3府を除き府を県に改称
					12・—	庶民の小田原藩校「文武館」への入学が許される
1870	明治	3	12・—	牛頭天王社、「素戔大神」となる	9・19	平民に姓（苗字）使用が許可される
					12・8	最初の日刊新聞「横浜毎日新聞」が創刊される
				 鍛冶屋村「家数順番札取極帳」	この年	各地で寺院破却が行われる「廃仏毀釈」
1871	明治	4			1・4	寺社領上知令公布
					1・18	ドイツ帝国成立
					1・24	東京・京都・大阪間で郵便事業が開始される
					4・4	戸籍法制定、行政区画として区を設置 戸長が任命される
					5・10	新貨条例制定
					7・14	「廃藩置県の詔書」
					10・8	岩倉具視らを欧米各国に派遣
					11・14	神奈川県・六浦県を廃し、神奈川県(県庁横浜)に、荻野山中県・小田原県・韮山県を廃し、足柄県（県庁小田原）に、神奈川県令に陸奥宗光、足柄県参事に柏木忠俊
1872	明治	5	3・19	鍛冶屋村で「家数順番札取極帳」が作られ、81戸が数えられる	1・29	戸籍調査を実施「壬申戸籍」
			この年	宮下・門川・鍛冶屋村を1学区とし城願寺を仮校舎に城堀学校が開設される	2・	福沢諭吉「学問のすゝめ」』初編刊行
			この年	宮上・泉村を1学区とし福泉寺を仮校舎とし宮上学校が開設	4・9	戸長　（正・副）を設置、区の戸長を廃止
			この年	真鶴村、福浦村、岩村3か村の入会海面を巡り足柄裁判所で争議	8・2	学制公布
					8・—	足柄裁判所を小田原に設置、 9月2日より開始
					9・12	官制鉄道、新橋ー横浜間に鉄道開通
					10・—	官立富岡製糸工場が開業
					11・9	太陽暦採用の詔書 ：12月3日を明治6年1月1日とする

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1872	明治	5			11・ 24	足柄県、県内に大区小区の設置と各大区の地域等を通達 （県内を5大区･52小区に区画）し、戸長･副戸長は副区長、名主役は戸長、年寄･組頭は副戸長と改称することを通達、湯河原の村々は足柄県相模国大1大区6小区〇〇村と称される
					11・ 28	小田原共同会社「足柄新聞」を創刊
1873	明治	6	5・—	吉浜村･福浦村合同で英潮院の本堂を仮校舎とし小学校教育はじまる	1・ 10	政府、「徴兵令」を布告
			7・ 30	素鷲神社に足柄県より村社認定の免許がおりる	3・ 19	足柄県、徴兵検査を実施 戸長と長男を除く満20歳の男子が対象
			9・—	鍛冶屋村、「地券取調書上帳2冊」･「地券実地取調帳」を作成 「地券書印税取調取立帳」を整備	6・—	足柄県、壬申地券下付調査を終了 地券発行を開始
					7・ 28	地租改正条例布告
					この年	足柄県の授業料、貧富･土地の状況により50銭･25銭･12銭･6銭の4等に分けられる
1874	明治	7	この頃	吉浜村から足柄県宛てに「地押誓約書」を提出	9・ 14	足柄県権令柏木忠俊、足柄県令に就任
			2・—	地租改正に際し、福浦、真鶴、吉浜、鍛冶屋の4村の間で字弾正河原より鍛冶屋村字深沢までは、真鶴村、福浦村からの秣入会を可すべきはずとの協定が成立	この年	足柄県の授業料、昨年よりさらに貧富差を考慮し12銭･8銭･4銭･1銭の4等とされる
			5・—	真鶴･吉浜･門川･岩･江ノ浦･根府川の6か村が石切会所を再開し相模6か村石山会社（真鶴会社）を設立（1875年堅石会社と改称）		
				吉浜郵便局、岩村から西9つの村の配達を開始		
1875	明治	8	3・—	鍛冶屋村役場、官有･民有を問わず村内の土地種目、反別を記した「地籍帳」を作成	1・ 8	学齢を満6歳から14歳までと制定
			5・—	鍛冶屋村で三角測量に基づく実測値を記入した野簿「周囲分検野簿」が作られる	12・ 29	政府、海面の官有化を宣言、海面借区制を定める
			10・ 12	鍛冶屋村、学齢人口7人、就学生徒34人、不就学生徒15人、就学率男90%･女36．8%	12・—	足柄県下各村、「地租改正地引帳」「引地絵図」の作成をはじめとする地租改正事業に着手
1876	明治	9	3・—	鍛冶屋村、「御改正田畑宅地反別取調帳」調製される（12月にも調製される）	3・ 1	足柄県、県会を設置、21日に第1回県会を開会
			この頃	鍛冶屋村の「地租御改正地引帳」仕上がる	4・ 18	足柄県の廃止 旧伊豆国以外は神奈川県に編入
			5・ 2	足柄県の廃止にともない湯河原各村の行政区画は神奈川県21大区6小区となる	5・—	内務省、天然痘予防規則を公布
			8・ 7	吉浜村で民有山林の「山林丈量」がはじまる		
			10・ 20	吉浜村に巡査屯所を設置		
			この年	字桜郷を中心とする鍛冶屋、吉浜、城堀間に入会地の培養と所徳の分配に関する協定が結ばれる		
1877	明治	10			2・ 15	「西南戦争」始まる
					7・ 25	～26日、暴風雨高波により小田原－熱海間道路が不通、河川橋梁流失･堤防決壊被害
1878	明治	11	3・—	内務省通達により、宮上村から泉、稲村が分離。伊豆国賀茂郡泉村となる		
			11・—	湯河原で官民有区別が行われる		

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1879	明治	12			2･下旬	第1回県議会選挙（定数47名）実施。足柄下郡から3名選出
					6・ 27	コレラ病予防仮規則制定
					8・—	コレラ県下に流行。罹患者1,029人、死亡者672人 （6月18日～8月29日）
					9・ 29	学制を廃止し「教育令」を制定
1880	明治	13			2・ 28	横浜正金銀行開業
					4・ 8	政府「府県会規則」を改定「区町村会法」を制定
1881	明治	14	1・ 11	大網張立につき、吉浜村、福浦村入会争論が漁場の貸借契約の形で和解決着	10・ 12	「明治23年に国会開設の詔書」公布
			5・ 24	福浦村、吉浜村と合同の成教舎を独立分離醍醐院庫裡（福浦村117番地）を校舎に充て「福浦学校」と称する	この年	小田原一熱海間に県道ができる
			5・—	「皇国地誌村誌（相模国足柄下郡吉浜村）」に吉祥院、英潮院、宗徳院の由来が記される		
1882	明治	15	4・ 11	泉村と湯河原の村々の間で入会協定書結ばれる	10・ 10	日本銀行開業
			5・—	吉浜村の成教舎、吉浜小学校と改称・妻込に校舎新築		
			この年	堀之内村、城堀村と改称		
			この年	城願寺の城堀学校、城堀村に校舎を新築		
			この年	福泉寺の宮上学校、宮上村、泉村と学区を分離し校舎を新築		
1883	明治	16			8・ 15	小田原一熱海間に電信開通
					11・ 28	鹿鳴館開館
1884	明治	17	この年	吉浜・鍛冶屋・城堀・宮下・宮上・門川の6か村戸長役場が吉浜にできる		
			この年	宮下・浄徳廃寺の寺屋敷が、地租改正により官有地として取り上げられるおそれがあるとして宮下村の共有地にする （共有戸数89：元禄15年11月より182年間で僅か5戸数が増加したのみ）		
1885	明治	18			12・ 22	太政官制廃止、内閣制度確立 ：第1次伊藤博文内閣成立
1886	明治	19	4・ 1	福浦学校、小学校令改正のため尋常科（4年）と別科（3年）を設置	4・ 10	師範学校令・中学校令・小学校令公布 小学校は尋常・高等の2等とし、尋常科4年を義務教育とする
					7・ 19	県令沖守固、県知事に就任
					8・	県下にコレラ流行 罹患者3,656人、死者2,236人
					この年	県下戸数 17万1,037戸、人口 90万9,137人 （男 46万1,393人、女 44万7,744人 ）
1887	明治	20			7・ 11	東海道線、横浜一国府津間開通、旅客数90名
					10・ 27	豆相汽船会社が設立され、国府津一熱海間に航路を開設
1888	明治	21			4・ 25	市制・町村制公布

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1888	明治	21			10・　1	小田原馬車鉄道株式会社 （現箱根登山鉄道）設立、国府津一小田原一湯本間で開業
1889	明治	22	4・　1	市制・町村制施行される 湯河原地方、宮上村・宮下村・城堀村・門川村が合併し土肥村に、鍛冶屋村・吉浜村が合併して吉浜村に、福浦村は独立して存続	2・ 11	「大日本帝国憲法」発布
			6・　5	吉浜村議会、熱海人車鉄道敷設に関し諸問題の示談が整ったので鉄道建設の許可を議定する	4・　1	市制・町村制施行
			11・—	吉浜村、消防団を新設する	5・　5	大倉喜八郎ら、小田原一熱海間人車鉄道敷設を神奈川県庁に請願
1890	明治	23	8・ 23	吉浜村、台風で熱海往還 （熱海街道）全幅崩壊、人馬の通行不能となる	2・　1	「横浜貿易新聞」創刊、日刊
			8・	吉浜村、悪疫 （コレラ）が流行し患者10名出る	6・—	長崎にコレラ発生、全国に蔓延、神奈川県下の死者267人、県7月に「伝染病予防心得」を訓令
			11・ 28	湯河原地方が関係する函根御料地と天城御料地が世伝御料地 （永遠の皇室財産）に編入される	7・　1	第1回衆議院議員総選挙行われる
			この年	市町村制により城堀・門川・宮下・宮上の4か村を合わせて土肥村と称する		
1892	明治	25	4・—	福浦学校、小学校令の改正により「足柄下郡尋常福浦小学校」と改称、尋常科の他に補習科を置く	6・ 21	鉄道敷設法公布
			5・—	城堀・宮上の両学校が合併することになり、校舎新築を計画。字宮下263番地に校地を指定し施工する		
			9・—	三遊亭円朝、 湯河原温泉（伊藤屋）に宿泊		
1893	明治	26	4・—	城堀・宮上の両学校が合併し宮下に「尋常土肥小学校」として開校	10・—	豆相人車鉄道会社設立
1894	明治	27	8・	尋常福浦小学校、字曽根川に校舎新築移転	8・　1	清国に宣戦布告:「日清戦争」起こる
1895	明治	28	6・ 21	日清戦争で負傷し東京陸軍予備病院に収容された負傷兵、湯河原で療養する。 6月21日～11月30日の療養患者数延数で 佐尉官1,260名，下士以下30,491名 合計旅籠料1,212円75銭	1・　5	小田原農芸会、足柄下郡農会を設立
			この頃	門川一温泉場間、人力車が往復	4・ 17	日清講和条約「下関条約」調印、三国干渉
					7・　1	「東海新報」創刊（日刊・東海新報社）
					7・ 13	豆相人車鉄道、熱海-吉浜間が開通
					8月～9月	神奈川県下でコレラ流行
1896	明治	29	5・ 21	吉浜郵便局で電信業務開始	3・ 12	豆相人車鉄道株式会社、小田原まで延長し小田原一熱海間が全面開通。所要4時間
					4・　6	第1回オリンピック、アテネで開催
					10・ 31	小田原馬車鉄道（株）、小田原電気鉄道（株）と改称
1897	明治	30	4・—	尋常吉浜小学校、校舎を八雲の里に新築し高等科を併置する。校名を尋常高等吉浜小学校と改称、土肥村より高等科へ入学する者が多く1学級増の7学級編成とする		

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1898	明治	31	6・—	吉浜銀行の発起認可	3・　5	明治30年10月設立の相陽汽船会社が設立許可 5月1日より東京−前羽−小田原−吉浜−網代−熱海−清水間に旅客・荷物営業を開始
1900	明治	33	6・10		3・20	小田原電気鉄道、国府津一湯本間運転開始
1901	明治	34	4・14	乃木希典、 湯河原温泉（天野屋）に湯治の為来訪	2・24	愛国婦人会結成
			8・—	国木田独歩、 湯河原温泉（中西屋）に宿泊	4・　1	神奈川県第二中学校（現神奈川県立小田原高等学校）開校。 5月7日県立第二中学校と改称
					4・13	漁業法を公布 ：沿岸漁業に旧慣に基づく漁業権を設定
1902	明治	35	6・—	国木田独歩「湯ヶ原より」発表		
			8・10	吉浜村、水害により堤防が破壊し2名死亡		
			9・30	暴風雨海嘯により、 吉浜村：潰家 100戸・沈没船2・死者9 門川村：全潰　27戸等・郵便局破壊 福浦村：潰家　20戸		
1903	明治	36	12・15	土肥村、飛田定右衛門、村長に就任		
1904	明治	37	3・　1	湯河原郵便局、電信業務開始	2・10	「日露戦争」始まる
			6・　1	日露戦傷病兵、湯河原温泉で療養開始		
1905	明治	38	4・　1	湯河原郵便電信受取所、湯河原郵便局と改称		
1906	明治	39	8　31	国木田独歩、湯河原温泉（中西屋）に宿泊	7・—	豆相人車鉄道、軽便鉄道への変更が許可され、社名を熱海鉄道株式会社と改称
			11・　7	土肥村字宮下で火事20戸焼失	この年	足柄下郡地方で温州ミカンの大規模植栽が始まる
			この頃	門川一温泉場間を人力車・乗合馬車・各数台で往復、馬車は20銭、人力車50銭		
1907	明治	40	1・—	国木田独歩「恋を恋する人」発表	3・21	小学校令改正、義務教育年限6年間に延長
			6・20	国木田独歩、湯河原温泉（中西屋）に再び宿泊	12・25	熱海鉄道（株）、小田原一熱海間を軽便鉄道で営業開始
			7・—	国木田独歩、「湯河原行き」「都の友へ、B生より」を発表		
1908	明治	41	8・—	尋常福浦小学校、学年が延長したため狭隘となり校舎を増築	7・28	大日本軌道株式会社設立、 熱海鉄道（株）は小田原支社となる
			12・—	志賀直哉、湯河原温泉（中西屋）に滞在し「子供四題」を執筆	この年	県下各地に青年団・婦人会が設立される
1909	明治	42	2・—	室伏勝蔵、上総掘りで温泉井戸試掘に成功 これ以後温泉井戸は藤木川の渓谷に沿い次々に掘られる		 室伏勝蔵氏
			4・—	尋常土肥小学校、2階建て校舎を増築 高等科を併置し尋常高等土肥小学校と改称 従来尋常高等吉浜小学校に通学していた高等科児童を収容。同時に熱海町泉区の学童委託を受けて収容。学級数6		
			10・16	湯河原郵便局で電話交換業務開始		
			11・28	伊東水力電気株式会社湯河原支社、開業	10・26	伊藤博文暗殺される
			12・—	皇孫殿下・伏見宮、熱海と湯河原に避寒		

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1910	明治	43	3・22	幸徳秋水、湯河原温泉（天野屋）に菅野スガと宿泊　5月1日に一旦帰京	4・21	軽便鉄道法公布
			5・11	幸徳秋水、再び湯河原温泉（天野屋）に宿泊	5・25	「大逆事件」の検挙始まる
			6・1	湯河原温泉（天野屋）に宿泊していた幸徳秋水、門川停車場で逮捕される：「大逆事件」		
			8・7	～8日、台風による豪雨、湯河原の温泉宿流失。各河川にかかる橋もほとんど流失、堤防が決壊し足柄下郡の被害額は47万円余りとなる		
			11・11	吉浜郵便局で電話交換業務開始		
1911	明治	44	10・—	室伏勝蔵、土肥村村長許可	10・10	「辛亥革命」始まる
1912	明治	45			7・30	明治天皇崩御 （61）、大正と改元
1912	大正	1	9・1	熱海軽便鉄道、吉浜村で海嘯のため線路が200余間破壊される	9・—	コレラが全国で流行
			9・7	吉浜銀行が駿河銀行に合併し支店は駿河銀行小田原支店と改称	この年	足柄下郡湯屋営業組合（本部松の湯）が設立される
			この年	土肥村で電灯の使用が始まる		
1913	大正	2	3・—	土肥村、貯蓄条例 （村財産の基礎）制定	1・—	相州蜜柑同業組合創立総会開催
			4・—	土肥村門川で火災、1村殆ど全焼	4・1	県立第二中学校、県立小田原中学校と改称
			この年	湯河原温泉の掘抜井戸の数が20になる 井戸は温泉場地区に密集し、多くは深さ50～100m		
1914	大正	3	1・—	東郷平八郎大将、療養先の湯河原温泉（養生園）より帰京	7・28	「第1次世界大戦」が始まる
					12・—	相州蜜柑、サンフランシスコ万国博出品のため発送
					12　—	国府津—熱海間の鉄道敷設と伊豆山系丹那峠にトンネルを掘り抜く工事が開始される
1915	大正	4	9・—	吉浜村字鍛冶屋で数名がチブスに感染、村民400人の健康診断を行う		
			11・—	尋常高等土肥小学校、ササリンドウの校章を制定		
			11・9	夏目漱石、～11月16日 湯河原温泉（天野屋）に宿泊		
			12・—	西園寺公望候、湯河原大倉男爵別荘で避寒		
1916	大正	5	1・27	夏目漱石、～2月16日 湯河原温泉（天野屋）に宿泊		伝頼朝の匿れた土肥の大杉
			この年	高杉自動車部が小型自動車（フォード）で営業開始	この年	帝国在郷軍人会足柄下郡連合会、創立
1917	大正	6	11・—	頼朝の匿れた土肥の大杉（1800年の樹齢）、暴風雨で吹き折られる	この年	1月～8月までの間に箱根山を震源とする地震が500回以上におよぶ
1918	大正	7			8・3	富山県で米騒動起る（1道・3府・38県で発生）
					10～11	悪性の流行性感冒蔓延 「成金感冒」と呼ばれ、11月初旬には下郡内患者数1万3,988人に達する
1919	大正	8			2・—	「スペイン風邪」、神奈川県下に大流行 罹患者2万9,348名、死者727名

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1919	大正	8			6・　1	小田原電気鉄道㈱、箱根湯本一強羅間に箱根登山鉄道の営業開始
					6・ 28	「ベルサイユ講和条約」調印
1920	大正	9	1・―	吉浜で山火事約20町歩を焼く	1・ 10	「国際連盟」発足、日本加入し常任理事国となる
			3・―	土肥村、宮上外2か所に養蚕組合設立	2・ 11	第1回東京一箱根間往復駅伝競走開催
			7・―	土肥村、前村長死去により村長選挙が行われ、高杉鐐助が当選	3・ 15	株式市場暴落：戦後恐慌始まる
			7・―	土肥村他でチブス蔓延	4・―	足柄下郡の徴兵検査、5月18日より6日間 人員963名
			9・―	尋常高等土肥小学校、現在の位置に移転	7・　1	大日本軌道小田原支社、熱海一小田原間の鉄道に関する権限を国に売却 同日、熱海軌道組合を設立して国有民営の形で運行を続行
			8・―	湯河原金融機関、信用組合を組織	10・　1	第1回国勢調査 （内地5,596万3,053人，外地2,102万5,326人）
			8・ 26	吉浜村2名、チフスと診断され小田原避病院に収容	10・ 21	熱海線、国府津一小田原間開通 小田原駅開業
			9・	豪雨被害により湯河原真鶴の圧死者3名を出し、軽便鉄道も交通途絶		
			10・　1	第1回国勢調査 土肥村：3,461人 吉浜村：3,218人 福浦村：1,027人		
			この年	真鶴駅一湯河原温泉場間、乗合自動車の運賃50銭		
1921	大正	10	4・―	尋常高等土肥小学校、新校舎に移転 児童数　男260・女256、計516名、学級数11	4・　1	丹那トンネルで崩壊事故、死者16名
			10・　1	芥川龍之介、～10月20日 湯河原温泉（中西屋）に宿泊	4・ 11	市制・町村制を改正公布 ：町村の等級選挙を廃止
					この年	小田原駅開業1周年、乗降客は1日平均4,175人となり、名古屋一横浜間で首位
1922	大正	11	3・―	芥川龍之介、「トロッコ」を『大観』に発表	12・ 21	熱海線、真鶴まで延長され、早川・根府川・真鶴の各駅が開業
			10・―	芥川龍之介、「百合」を発表	12・ 30	ソビエト社会主義共和国連邦成立
			この年	真鶴駅一温泉場間、乗合馬車1日6往復で温泉客を運ぶ。また、小型自動車7台で往復：往復賃金1円50銭		
1923	大正	12	1・―	大正12年度、土肥村の3大事業として道路改修・小学校増築・派出所建設を期する	4・　1	郡制廃止
			1・―	尋常高等吉浜小学校、出雲台に校舎を新築移転　1学級増設、2部授業を廃止		
			2・―	東京実業家による新湯河原開拓計画、吉浜村共有地山林を買収		
			3・　1	芥川龍之介、～4月中旬 湯河原温泉（中西屋）に宿泊		
			4・　1	法令の改正により小学校名が変更となる。各学校は、 尋常高等土肥小学校は、土肥尋常高等小学校 尋常高等吉浜小学校は、吉浜尋常高等小学校 尋常福浦小学校は、福浦尋常小学校		

芥川龍之介

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1923	大正	12	9・ 1	「関東大震災」発生 被害：各村の状況 土肥村：家屋の下敷きになり28名死亡 吉浜村：600戸全戸に被害 福浦村：山崩れで20名以上が犠牲となり5戸が埋没	9・ 1	「関東大震」災発生 県下大激震（M7．9）震源地相模湾北西部 死者2万9,614人、全壊焼12万1,491戸 足柄下郡下の建物の罹災率は99．2%におよぶ
				被害：各学校の状況 土肥尋常高等小学校、校舎損傷 吉浜尋常高等小学校、校舎全部倒潰 福浦尋常小学校、校舎倒潰に近い大損害		相州足柄下郡の惨状　死者3,500人、負傷者2万7,000人
				被害：その他の状況 幕山は崩れ、白石丁場・兎沢も大崩壊、道路・鉄道は寸断され、地震と同時に湯河原地域は陸の孤島となる		 真砂橋付近の被害の様子
				その他の状況 震災直後の「朝鮮人来襲」流言騒ぎが起こる 東京、神奈川に戒厳令を発布		
			9・ 3	「村の新聞」がこの日より一カ月半にわたり発行される		 倒壊した吉浜尋常小学校
			9・ 3	復興活動は戒厳令により軍隊が出動し始まる（～11・15まで）		
			9・ 4	熱海線開通工事の為在住していた多数の朝鮮人・台湾人が襲われ、死傷者を出す		
			9・ 5	吉浜村で玄米の配給	9・ 16	憲兵大尉甘粕正彦、大杉栄・伊藤野枝らを殺害
			9・ 5	歩兵34連隊（20人）が派遣される		
			9・ 9	歩兵57連隊が湯河原地方に駐在		
			9・25	湯河原小学校、臨時休業を解き、二部授業を実施		
			10・ 1	福浦小学校、仮校舎と醍醐院において授業を再開		 開業時の湯河原駅
1924	大正	13	1・—	芥川龍之介、「一塊の土」発表		
			7・23	八亀熊次郎、土肥村長認可		
			10・ 1	熱海線、根府川ー湯河原間が復旧、開通。湯河原駅開業		
			10・ 1	熱海軌道組合、正式に名義廃止		
				土肥商工、不二屋自動車の小型自動車・乗合自動車（24人乗）・馬車・人力車が常駐し温泉場間を定期運行		
1925	大正	14	1・17	大震災の影響で諸所から温泉湧出	1・ 20	日ソ基本条約調印
			6・—	吉浜海水浴場開かれる	3・ 1	社団法人東京放送局（日本放送協会前身）、試験放送開始
					3・ 1	白糸川橋梁、単線完成 根府川ー湯河原間全通 熱海線、国府津－小田原間は複線運転 小田原－湯河原間は単線運転
					3・ 3	足柄下郡第1回連合青年団総会が小田原御幸座で開催される
					3・ 25	熱海線、熱海線全線復旧開通
					4・ 22	治安維持法公布
					5・ 5	衆議院議員選挙法改正公布 ：男子普通選挙実現

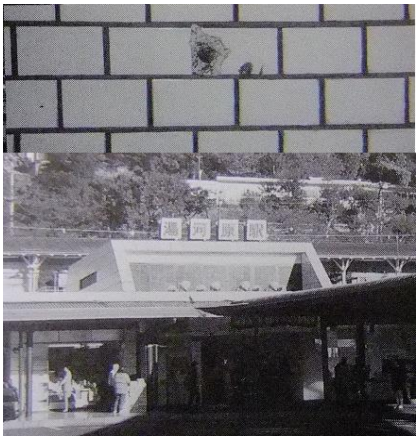
西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1925	大正	14			8・　2	第2次加藤高明内閣成立
					10・　1	第2回国勢調査 神奈川県内　人口　141万6,792人 世帯数　28万7,777戸
					この年	国府津－熱海間の汽船が廃止
1926	大正	15	1・―	芥川龍之介、～2月 湯河原温泉（中西屋）に宿泊	1・29	熱海線、国府津－小田原間電化工事完成
			1・―	土肥村、山火事35町歩に亘る	1・30	第1次若槻礼次郎内閣成立
			3・―	吉浜局管内に電話が開通 （吉浜局管内1～8番まで）	6・24	府県制・市制・町村制改正
			3・―	吉浜村で山火事、村有林50町歩を焼く	7・　1	神奈川県下9郡、郡役所廃止
			6・―	吉浜村でチブス発生	8・　6	日本放送協会設立
			7・　1	足柄下郡土肥村、湯河原町と改称 （人口5,000人、戸数650戸）	10・22	明治神宮外苑完成し奉献式
			この頃	湯河原町役場は宮下626-1番地 吉浜村役場は　吉浜999番地 福浦村役場は　真鶴810番地 （岩村、真鶴村と役場組合）		
			7・　1	町名改称により、 土肥尋常高等小学校、湯河原町立尋常高等小学校と改称。同校内に湯河原町立青年訓練所を設置		
			7・10	福浦尋常小学校、福浦村立青年訓練所を開設		
			7・―	吉浜青年会館落成		
			12・―	藤木橋架替で温泉湧出		
1926	昭和	1			12・25	大正天皇崩御 摂政宮裕仁親王践祚（せんそ） 昭和と改元
1927	昭和	2	7・20	藤木橋開通式	3・15	「金融恐慌」始まる
			12・　5	熱海県道乗合運転開始	4・　1	徴兵令廃止、兵役法公布
			12・　5	湯河原町火葬場使用料条例が制定 使用料2円	4・　1	小田急電鉄、新宿－小田原間開通
			12　21	湯河原会館開館	4・20	田中義一内閣成立
			この年	駿豆自動車湯河原営業所開設	9・28	真鶴村、真鶴町と改称
					10・15	小田急全線複線運転開始
					12・30	浅草－上野間に初の地下鉄開通
1928	昭和	3	2・25	小田原－湯河原の複線運転が開始	1・23	日ソ漁港条約調印
			4・―	高知尾健次郎の嘆願により奥湯河原に通ずる自動車道開設	2・11	第2回冬季オリンピック・サン・モリッツ大会開催（～19日）
			11・―	福浦村で「水道使用条例」が制定	2・20	普通選挙による初の衆議院選挙
			この頃	奥湯河原でも温泉を掘り始める	5・17	第9回オリンピック・アムステルダム大会開催（～8月12日）
					6・　4	関東軍河本参謀ら張作霖を爆殺
					8・27	パリで不戦条約に調印
					11・10	昭和天皇即位礼

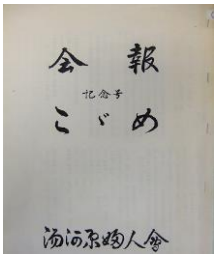
西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1929	昭和	4	4・ 1	各町村議員改選（湯河原、吉浜、前羽、下府中）	6・ 3	中国国民政府を正式承認
			5・—	「湯河原町衛生組合規約」が定められる	7・ 2	浜口雄幸内閣成立
			11・—	湯河原町長、伊藤氏退職	10・ 24	世界恐慌始まる
1930	昭和	5	4・ 3	土肥会設立	4・ 22	「ロンドン海軍軍縮条約」調印
					10・ 1	第3回国勢調査、 神奈川県人口　161万9,606人 世帯数　32万3,263戸
					10・ 2	「ロンドン海軍軍縮条約」批准
					10・ 3	米価大暴落で大阪・東京米穀取引所立会休止
			11・—	福浦対吉浜の公判（漁権賃貸借紛争）	11・ 14	浜口首相、東京駅で狙撃され重傷
			11・ 26	伊豆地方震災のため福浦尋常小学校では、門柱倒れ運動場の石垣崩壊、物置傾斜、校舎の壁は亀裂剥げ落ち多く 旧校舎は土台が外れ床の東南隅さがる	11・ 26	「北伊豆地震」 午前4時3分強震（M7．3、直下型地震、震源丹那盆地北西付近） 箱根山を中心に被害、東海道線熱海線不通・道路に亀裂が生じ・電灯ガスの供給止まる
			この年	湯河原町向山上水道できる	この年	世界恐慌波及 米価・糸価大暴落、輸出減退、労働争議・小作争議が激増「昭和恐慌」
1931	昭和	6	4・ 1	塵芥焼却開始	4・ 14	第2次若槻礼次郎内閣成立
			4・—	宮上新道が開通	7・ 22	横浜銀行破産宣告
			7　—	吉浜村で「水道使用条例」が制定	8・ 3	羽田に飛行場完成
			この年	宮下、宮上、門川に柑橘出荷組合が設立	9・ 18	「満州事変」
					12・ 13	犬飼毅内閣成立 初閣議で金輸出再禁止を決定・高橋財政始
					この年	東北地方の冷害・凶作で農村不況深刻化、物価下落・輸出減退続く
1932	昭和	7	1・—	千余年前の石畳の地下室が城願寺土肥実平の墓付近で発見される	1・ 28	「第1次上海事変」
			1・—	与謝野晶子夫妻が初めて吉浜真珠荘に招待され、高杉別館にも泊り歌を詠む 山窪む　ところにあまた　灯のありて 川の音する　温泉に著く 川の音　高し枕に　落ちて来る 星のあるやと　窓はるるかな	2・ 2	ジュネーブ軍縮会議
			7・—	吉浜村に疫痢が続発	2・ 4	第3回冬季オリンピック・レークプラシッド大会開催（～13日）
			11・ 15	14日夕刻より暴風雨のため、民家と蜜柑に大被害。 暴風雨の損害　:住宅全壊14同半壊22・同破損121・重傷1名・軽傷2名	3・ 1	「満州国建国」宣言
					5・ 5	上海停戦協定調印
					5・ 15	「5・15事件」 :海軍青年将校ら犬飼首相射殺
					5・ 26	斉藤実内閣成立
					7・ 30	第10回オリンピック・ロサンゼルス大会開催（～8月14日）

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1933	昭和	8	2・21	湯河原小学校、室伏勝蔵氏寄付による講堂落成（工費1万3,000円）		室伏勝蔵氏寄附による講堂
			3・12	福浦尋常小学校、2階建4教室の新校舎と付属建物を増築	2・24	国際連盟総会、満州撤退勧告案を42対1で採決
			11・1	吉浜村経済厚生委員会が設立	3・27	日本、国際連盟脱退
			この年	宮下区営水道が設置	3・29	米穀統制法公布
			この年	福浦村厚生会結成	4・1	下郡最初の四町村（湯河原、吉浜、前羽、下府中）の議員選挙実施
					11・17	米、ソビエト連邦を承認
					12・23	皇太子明仁誕生
1934	昭和	9	6・—	烈風豪雨中に湯河原大火、駅前25戸全半焼7万円損害	3・1	満州国、帝政となる（皇帝溥儀）
			12・1	丹那トンネル開通式	9・21	「室戸台風」、死者、行方不明3,036人
			この頃	小型自動車20台、乗合バス6台、人力車13両、乗合馬車9台が駅に常駐	12・1	丹那トンネル開通、国府津一沼津間を東海道本線とする
			この年	福浦築港事業完了	12・—	泉地区に最初の温泉旅館（翠明館）ができる
					この年	東北地方、冷害・大凶作で惨状を極める
1935	昭和	10	2・—	この頃　湯河原の人口5,600人	1・—	芥川賞・直木賞創設
			4・27	門川温泉開業	6・14	大雄山鉄道、小田原駅に乗り入れる
			5・17	吉浜役場新築	9　24	関東地方大豪雨
			6・—	吉浜音頭、完成	10・1	第4回国勢調査 神奈川県　人口　184万5人 世帯数　35万戸
			9・24	湯河原、大豪雨で被害	10・—	箱根登山鉄道株式会社、小田原－箱根湯本間開通
			10・1	第4回国勢調査 湯河原町：6,697人 吉浜村：4,030人 福浦村：1,191人		
			12・—	湯河原駅改築工事竣工		
1936	昭和	11	2・—	湯河原山火事　宮下より出火吉浜方面へ延焼	1・15	日本、ロンドン軍縮会議を脱退
			2・26	「2・26事件」：河野寿大尉指揮の8人、湯河原温泉（伊藤屋別館：光風荘）に避寒中の牧野伸顕を襲撃するも未遂	1・15	富士箱根国立公園決定
			4・—	小澤栄三郎、吉浜村長就任	2・6	第4回冬季オリンピック・ガルミシュ＝パルテンキルヘン大会開催（～16日）
			4・—	加藤茂助、湯河原町長就任	2・26	「2・26事件」 ：皇道派青年将校、ク―デター断行
			5・13	門川部落中央部より出火し、母屋23戸、小屋24戸焼失	2・27	東京都に戒厳令執行（7月18日解除）
			5・—	吉浜村役場落竣工	8・1	第11回オリンピック・ベルリン大会開催（～16日）
			5・—	八亀武雄、湯河原町長就任	11・25	「日独防共協定」に調印

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1936	昭和	11	6・23	独歩30年忌を記念し地元の人々により万葉公園に独歩文学碑建立	12・31	「ワシントン海軍軍縮条約」失効
			8・—	落合橋開通		
			この年	県道20号（現75号：真鶴一湯河原一箱根間）38．9キロが開通。奥湯河原から沿道に椿を植え「椿ライン」と云う		
1937	昭和	12	10・—	「出征軍人援護会」、設立	7・7	「蘆溝橋事件」：日中戦争勃発
			10・14	湯河原で初めて戦死者の町葬が行われる	8・13	「第2次上海事変」
			11・—	湯河原町戸口調査：1,053戸	12・13	日本軍、南京を占領、大虐殺事件
			この年	湯河原、下郡柑橘加工組合に加入		
			この年	吉浜村、吉浜村出動軍人後援会を組織し、遺家族や帰還兵の援護・相談にあたる為、吉浜村軍事援護相談所を開設		
1938	昭和	13	1・—	湯河原戦時対策実行委員会、発足	4　1	国家総動員法公布　（5月5日執行） 国民健康保険法公布（7月1日執行）
			6・—	与謝野晶子が湯河原温泉（中西屋）に宿泊し、歌を詠む 湯河原の　中西の湯に　留まりて 数へらるるも　はかなき月日 河鹿鳴く　箱根の嵐　及ぶなる 藤木の川の　板橋のもと		
			12・—	「万葉歌碑」落合橋際に建立		
1939	昭和	14	4・1	湯河原消防署、警防団令により、湯河原町警防団に改称	4・12	米穀配給統制法公布
			10・13	島崎藤村夫妻、午後5時湯河原駅着 湯河原温泉（伊藤屋）に宿泊	7・26	米国、日米通商航海条約破棄を通告
			12・—	湯河原町で各地区や団体ごとに国民貯蓄組合が結成、旅館ごとにも貯蓄組合が結成	9・1	ドイツ軍、ポーランド進撃を開始 ：「第2次世界大戦」始まる
			12・13	島崎藤村 湯河原温泉（伊藤屋）に宿泊	10・18	価格等統制令を公布
					11・6	米穀強制買上制を実施
1940	昭和	15	1・28	温泉場の大火　全焼36戸	4・1	足柄上郡南足柄村・足柄下郡吉浜村、町制執行
			4・1	吉浜村、町制執行（吉浜町になる）	8・1	「相模合同新聞」（「東海新報」・「小田原新聞」・「神静毎日新聞」が合併して改題）
			6・7	島崎藤村 湯河原温泉（伊藤屋）へ宿泊	9・11	内務省、部落会・町内会・隣保班・市町村常会整備要綱を府県に通達
			6・15	島崎藤村 夫人同伴湯河原温泉（伊藤屋）へ宿泊	9・27	「日独伊3国同盟」調印
			9・—	旧湯河原町で「水道使用条例」が制定	10・1	第5回国勢調査 神奈川県人口　218万8,974人 世帯数　43万1,229世帯
			10・1	第5回国勢調査 湯河原町：7,585人 吉浜町：4,057人 福浦村：1,185人	10・12	大政翼賛会発会式挙行
					11・2	大日本帝国国民服(カーキ色）令公布
					12・13	「神奈川新聞」創刊（「横浜貿易新報」・「横浜新聞」を吸収合併し改題）
					12・20	合併により小田原市誕生

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1941	昭和	16	4・　1	国民学校実施により 湯河原町国民学校と改称 吉浜町国民学校と改称 福浦村国民学校と改称	3・　1	改正小学校令公布、国民学校令公布（4月1日改正）
			この年	一般家庭を対象に回収運動が始まり金属類特別回収を実施	4・　1	生活必需物資統制令公布 小学校を国民学校と改称
					4・13	「日ソ中立条約」、調印
					5・—	木炭の配給通帳制と酒の切符制実施
					8・　1	米国、対日石油輸出完全停止
					8・12	二重米価制の採用決定
				金属類特別回収	12・　8	日本海軍、真珠湾攻撃:「太平洋戦争」勃発
					12・11	日独伊3国協定、締結
					12・16	物資統制令、公布
					12・21	日本・タイ軍事同盟に調印
1942	昭和	17	2・—	湯河原の電話、共電式になる	1・　1	塩通帳制配給、実施
			9・—	湯河原温泉旅館商業組合創立	2・　1	衣料・味噌醤油の切符制実施
					2・　1	「神奈川新聞」創刊（神奈川新聞・神奈川日日新聞・相模合同新聞）の3紙合同
					2・21	食糧管理法公布
					2・24	日本銀行法公布
					3・　7	大本営・政府連絡会議、戦争指導大綱を決定
					4・18	米軍機、日本本土を初空襲（東京・名古屋・大阪）
					6・　5	「ミッドウエー海戦」
				与謝野晶子夫妻の連理歌碑	6・11	山陽本線、関門トンネル竣工
1943	昭和	18	3・26	真珠荘に与謝野晶子夫妻の連理歌碑が造立される	3・11	農業団体法公布（各産業組合と農会の統合）
			4・　1	吉浜町国民健康保険組合診療所設置（役場内）	4・18	山本五十六連合艦隊司令長官戦死
			4・—	国民健康保険医療開始	6・25	学徒戦時動員体制確立要綱を決定
					7・21	国民徴用令、改正公布
					8・　1	日本、ビルマ同盟条約調印
				湯河原町・横須賀海軍病院接収旅館一覧表 病院本部　山翠楼　加満田　清光園　天野屋 病　棟　敷島館（第3病棟）中西（4）箱根屋（5） 上野屋（6）　伊豆屋（7）　高杉分店（8） 富士屋（9）　藤田屋（10）　伊藤屋（11） 遠州屋（12）　養浩荘　翠明館　長生園 看護婦宿舎　相模屋　光陽館　藤木屋（？） 『こごめ』第6号より	9・22	女子学徒動員を決定
					10・31	軍需会社法公布
					12・　1	第1回学徒兵入隊（学徒出陣）
				横須賀海軍病院接収旅館一覧	12・24	徴兵適齢臨時特例公布 （徴兵適齢を19歳に引き下げ）
1944	昭和	19	3・—	農産物の生産販売の統制を目的とした湯河原農業会が発足（昭和25年8月に解散）	2・22	臨時国勢調査と国民登録を実施
			5・2 5・3	湯河原で傷病兵士を招聘 横須賀海軍病院の名称で、本部を山翠楼、天野屋、清光園に置き、屋号は使わず第一病棟、第二病棟と呼んだ	6・19	「マリアナ沖海戦」

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1944	昭和	19	8・—	横浜市の6つの国民学校児童（稲荷台、岡野、青木、西前、一本松、宮ヶ谷）が疎開。宿泊の受け入れを温泉旅館が行う	8・ 23	学徒勤労令・女子挺身勤労令公布
			8・—	獅子文六、吉浜の地（町役場前「碧翠」の地にあった家）に疎開	10・ 10	米軍機動部隊沖縄を空襲
			10・—	農商務省が松根油緊急増産対策措置要綱を決定、湯河原にも海軍の兵士が訪れ、松根油の生産を命じる	11・ 23	保善院に「栖鳳筆塚」及び「栖鳳爪塚」が造立される
					11・ 24	B29・28機、川崎・横須賀・葉山を空襲
					12・ 7	東海地方に大地震
					12・ 25	B29・2機、横浜を空襲、鶴見区・港北区に被害
1945	昭和	20	5・ 23	5月現在の湯河原町人口　9,547人 世帯数2,072戸	2・ 4	ヤルタ会談開催
			7・ 30	湯河原駅が米軍艦載機からの空襲を受ける	2・ 16	米艦載機273機、横浜・川崎・横須賀・藤沢・平塚・小田原などを空襲
					2・ 19	米軍、硫黄島に上陸
					3・ 6	国民勤労動員令公布
					3・ 9	9～10日、東京大空襲 （22万戸焼失、死傷12万人）
					3・ 13	名古屋空襲
					3・ 14	大阪空襲
					3・ 17	神戸空襲
					4・ 1	米軍、沖縄本島に上陸
					4・ 4	B29・80機、横浜・川崎の工業地帯を襲撃
					4・ 15	B29・20機、川崎・鶴見・神奈川などを夜間襲撃
					5・ 7	ドイツ、無条件降伏
				湯河原駅の階段に今も残る弾痕	5・ 24	B29・250機、京浜重工地帯を空襲
					5・ 29	B29・500機、P51・100機、横浜を大空襲
					7・ 7	B29・80機、足柄下郡酒匂町空襲
					7・ 10	米艦戦機420機、横浜・横須賀などを空襲
					7・ 16	B29・117機、平塚・小田原など空襲
					7・ 30	米艦載機315機、藤沢・平塚・足柄上・下郡などを空襲
					8・ 6	広島に原子爆弾投下
					8・ 9	長崎に原子爆弾投下
					8・ 13	米艦戦機200機、横浜・川崎・平塚・足柄上郡・下郡・小田原など空襲
			8・ 15	終戦	8・ 15	B29・30機、小田原を空襲 日本無条件降伏 天皇、戦争終結の詔書を放送
			9・—	泉の湯河原合併運動起こる（4回目）	9・ 2	ミーズリー号で降伏文書調印
					10・ 24	国際連合発足

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1945	昭和	20		 湯河原婦人会・会報「こごめ」記念号	11・　1	第6回国勢調査、 県人口186万5,667人 （男92万2,522人、女94万3,145人）
					11・　2	日本社会党結成
					11・　6	GHQ、財閥解体を指令
					11・　9	日本自由党結成
					12・　9	GHQ、農地改革を指令
1946	昭和	21	1・―	吉浜町に農村青年連盟支部が結成される	1・　1	天皇、人間宣言
			4・―	湯河原町婦人会、再発足	2・ 17	金融緊急措置令公布（新円切り替え）
			8・　1	福浦村、真鶴町外二か村組合から分離し福浦村となる	3・　3	物価統制令（3・3物価体系）公布
			12・―	各市町村農地委員会が選出される（湯河原町、吉浜町、福浦村、各10名ずつ）	4・ 10	第22回衆議院議員選挙、 婦人議員39人誕生、共産党議会初進出
			この年	湯河原町が受けた米の供出割当は363石（907俵半）で、このうち146石を甘藷の茎・葉・団栗・蜜柑の皮など代替品で供出	10・ 21	「農地調整法改正」「自作農創設特別措置法」を公布（第2次農地改革）
			この年	吉浜町で自給用の塩を確保するため、製塩事業民間人に委託	11・　1	第1回国民体育大会開催
					11・　3	日本国憲法公布
1947	昭和	22	3・―	町長を会長に湯河原観光協会発足	3・　8	国民協同党、31日民主党結成
			3・ 27	湯河原町で部落町会議を開き、今後部落会に変わり区を設置	3・ 31	教育基本法・学校教育法を公布 （6・3・3・4）制を規定
			4・　1	学制改革、 国民学校をそれぞれ小学校と改称	3・ 31	民主党を結成
			5・　5	新学制により、湯河原町立湯河原中学校、吉浜町立吉浜中学校が開校	4・　1	新制小・中学校発足 町内会・部落会・隣組廃止
			9・　2	吉浜中、校名を吉浜町福浦村学校組合立吉浜中学校と改称	4・　5	第1回知事選挙、県知事に内山岩太郎当選
			10・　1	臨時国勢調査 湯河原町：9,824人 吉浜町：5,406人 福浦村：1,614人	4・ 17	公共職業安定所発足
			この年	湯河原町公安委員会が湯河原町役場に、警察署が宮下95-2に置かれる	4・ 20	第1回参議院議員選挙
					4・ 25	第23回衆議院議員選挙
				 湯河原町農業協同組合	5・　3	日本国憲法・地方自治体法施行 町内会・部落会解散政令公布
					8・　4	最高裁判所発足
					10・　1	臨時国勢調査実施（総人口7,810万1,473人） 神奈川県人口　221万8,120人 世帯数　46万5,941世帯
					12・ 17	警察法を公布 （国家地方警察・自治体警察を設置）
					この年	第1次ベビーブーム
					この年	箱根駅伝が復活
1948	昭和	23	2・ 23	吉浜町鍛冶屋農業協同組合、県知事から正式に認可を受け発足	1・　1	家の制度を廃止、改正民法が執行
			3・―	吉浜農業協同組合・川堀農業共同組合設立	1・ 26	「帝銀事件」

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1948	昭和	23	4・—	宮上温泉水道組合・見付栄町水道組合設立	1・ 30	第5回冬季オリンピック・サンモリッツ大会開催
			4・ 1	湯河原町農業協同組合設立	4・ 1	新制高等学校発足
			4・ 1	福浦村立福浦幼稚園、開園	6・ 28	「福井地震」（M7．1）
			4・ 10	私立湯河原幼稚園、開園	7・ 20	国民の祝日に関する法律公布
			7・ 6	福浦小学校、給食開始	7・ 29	第14回オリンピック・ロンドン大会開催 日本は第二次世界大戦の責任を問われ不参加
			9・ 2	吉浜小学校、給食開始	8・ 13	大韓民国樹立の宣布式
			9・ 15	アイオン台風、千歳川で総延長3,700mに及ぶ堤防決壊（被害総額1億6千万円）福浦港は破滅的被害	9・ 9	朝鮮民主主義人民共和国成立
			11・ 15	湯河原中学校、新校舎落成日	9・ 15	アイオン台風
1949	昭和	24	2・—	宇野浩二 水上勉と湯河原温泉（中西屋）に宿泊	1・ 14	民間外貨導入が始まる
			3・ 14	湯河原町長不信任決議を受け議会を解散	4・ 4	北大西洋条約機構（NATO）成立
			4・ 11	湯河原小学校で給食を開始	4・ 23	1ドル360円の単一為替レート設定 （25日から実施）
			4・—	町有地の払下げ事件をめぐってリコール問題になり、湯河原町会議員出直し選挙	5・ 23	ドイツ連邦共和国（西独）成立
			8・ 31	キティ台風の影響で福浦漁港施設破滅的被害	6・ 1	国鉄、専売公社発足
			10・ 1	湯河原農協、城堀に支所を開設	7・ 5	「下山事件」
					7・ 15	「三鷹事件」
					8・ 17	「松川事件」
					8・ 31	キティ台風
					10・ 1	中華人民共和国成立
					11・ 1	道路交通法で「車は左、人は右」の対面交通になる
					11・ 3	湯川秀樹、ノーベル物理学賞受賞
1950	昭和	25	3・ 1	湯河原観光協会設立	1・ 7	1,000円札発行
			10・ 1	第7回　国勢調査 湯河原町：1万54人 吉浜町：5,317人 福浦村：　1,602人	3・ 1	東海道線、東京一熱海間に湘南電車が運行開始
			11・ 25	福浦村で「社会教育法施行条例」制定	4・ 13	熱海市街大火 焼失979棟、被災世帯1,465戸
			11・—	湯河原町観光会館、完成	4・ 15	公職選挙法、公布
			12・ 25	湯河原町で「社会教育法施行条例」制定	6・ 25	朝鮮戦争が起こる
					10・ 1	第7回　国勢調査 神奈川県人口　248万7,665人 世帯数　52万3,914戸
1951	昭和	26	2・—	獅子文六、胃潰瘍の術後、奥湯河原で静養	1・ 3	NHK，第1回「紅白歌合戦」を放送
			4・ 20	湯河原農協、町の援助により、製茶業務を開始	4・ 1	沖縄の米民政府、琉球臨時中央政府を設立

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1951	昭和	26	9・28	湯河原町議会で、「湯河原町警察を維持しない事を住民投票に付する件」を決議し住民投票の結果、湯河原町警察が廃止。国家警察足柄下地区警察に業務移管 （その後昭和29年、都道府県警察に一元化）	5・1	電力再編成で9電力会社発足
			11・2	熱海市と消防相互応援協定締結	6・21	国際労働機構（ILO）総会、日本の加盟を承認
			11・22	鍛冶屋駐在所完成	9・4	対日講和会議（サンフランシスコ）、 8日 対日平和条約・日米安全保障条約に調印
			この年	吉浜中学校、個人時間割学習を高く評価され、モデルスクール校となる	10・14	ルース台風
					11・28	小田原大火 （335戸焼失，損害1億5,000万円）
1952	昭和	27	11・1	教育委員会法により各市町村ともに教育委員が選挙により選出され、教育委員会が発足	2・14	第6回冬季オリンピック・オスロ大会開催
					4・1	琉球中央政府発足
					4・28	対日平和条約・日米安全保障条約発効、 極東委員会・対日理事会・GHQ廃止
					4・28	日華平和条約に調印
					6・6	中央教育審議会設置
					6・9	日印平和条約に調印
					7・1	住民登録を実施
					7・1	羽田空港、米国より返還
					7・19	第15回オリンピック・ヘルシンキ大会 （日本復帰）
					8・1	日本電信電話公社発足
					8・13	国際通貨基金（IMF）・国際復興開発銀行（世界銀行）加盟に調印
					10・30	第4次吉田茂内閣設立
					11・4	米、大統領選挙、アイゼンハワーが当選
1953	昭和	28	3・24	湯河原小学校、新校歌を公表	2・1	NHK、テレビ放送を開始
			3・—	県道熱海一小田原線（現国道135号線）改修工事着手	2・28	吉田首相、衆議院で「バカヤロー」と暴言 3月14日解散
			5・18	小田原一下田線が二級国道に指定 :現国道135号線	4・1	保安大学校開校 （1954年に防衛大学校と改称）
			6・—	吉浜中で被服・調理実習などの設備ができる	4・2	日米友好通商航海条約に調印
			8・26	湯河原町に合併調査委員会、設置	4・19	第26回衆議院議員選挙
			9・25	台風13号の影響で湯河原も大災害	4・24	第3回参議院議員選挙
			10・—	西相五か町村(岩村・真鶴村・福浦村・吉浜町・湯河原町)、「西相町村合併調査協議会」設置	5・21	第5次吉田茂内閣成立
			12・—	山本有三、通称理想郷の地に居を移し20年間をこの地に送る	8・1	公衆電話料、5円が10円に
			この年	吉浜にゴルフ場ができる	8・20	ソ連、水爆実験成功を発表

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1953	昭和	28			12・24	奄美群島返還の日米協定調印
1954	昭和	29	3・—	私立宮上幼稚園開設	1・1	50銭以下の小貨幣を廃止
			4・16	県立奥湯河原自然公園指定：14万7,345ha	3・1	米国、ビキニ環礁で水爆実験、第五福竜丸被爆
			8・15	湯河原町営水道給水開始 （昭和26年11月～継続）	9・26	青函連絡船洞爺丸、台風15号で転覆、死者行方不明1,115人
			11・1	湯河原町駅下土地区画整理事業認可	12・10	第1次鳩山一郎内閣成立
					この年	電気洗濯機・冷蔵庫・掃除機が急速に普及
1955	昭和	30	1・—	西相町村合併促進協議会、解散	3・19	第2次鳩山一郎内閣成立
			4・—	湯河原町吉浜財産区設立	6・1	初のアルミ貨（1円）
			4・1	町村合併促進法により湯河原町・吉浜町・福浦村合併、現在の湯河原町誕生 （人口1万7,971人、世帯数3,597戸 町長：伊藤鶴松）	8・—	森永ヒ素ミルク中毒問題化
			4・1	町村合併により、各小・中学校及び福浦幼稚園は、湯河原町立となる	10・1	第8回国勢調査 神奈川県人口　291万9,497人 世帯数 62万5,619戸
			4・1	湯河原町消防団発足（3個部分団編成）	10　30	第10回神奈川国体秋季大会開催
			4　1	湯河原体育協会発足	11・14	日米原子力協定調印
			4・—	湯河原町新町建設計画策定	11・22	第3次鳩山一郎内閣成立
			5・6	新生湯河原町第1回町長選挙 第1代八亀武雄　町長就任	この年	下期より、神武景気（～1957年上期）
			5・16	湯河原農協会、第7回通常総会開催し名称を湯河原農業協同組合とする		
			6・—	吉浜中学校で総2階校舎が完成		
			7・—	万葉公園内万葉館建設		
			10・1	第8回　国勢調査　湯河原町：1万7,971人		
			12・23	吉浜中学校で制服が制定		
			12・23	泉区分離紛争に関する調停成立が告示される		
			この年	湯河原町「小作地所有状況調査結果報告書」が出される		
			この年	国連協会の会員募集、湯河原は71人の会員獲得目標が割り当てられる		
1956	昭和	31	3・8	町村合併以後第1回目の町議会議員選挙	1・26	第7回冬季オリンピック・コルチナ・ダンペッツォ大会開催
			4・1	吉浜中学校、県より社会福祉事業研究校に指定	3・22	日米技術協定に調印
			4・—	湯河原駅前サービスセンター開設	5・9	日本登山隊、ヒマラヤのマナスル初登頂
			5・24	湯河原農協協同組合、宮上支所開設	5・14	日ソ漁港条約に調印
			8・—	広河原浄水場開設	7・1	気象庁発足
			8・27	湯河原中学校、プール完成	7・8	第4回参議院選挙
					10・19	日ソ国交回復の共同宣言調印
					11・19	東海道本線全線電化

観光会館

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1956	昭和	31			11・ 22	第16回オリンピック・メルボルン・ストックホルム大会開催
					12・ 18	国連総会、日本の国連加盟を全会一致で承認
					この年	熊本県水俣湾周辺の住民に奇病発生（水俣病）
1957	昭和	32	4　1	湯河原小学校、特殊学級開設	1・ 29	南極観測隊、オングル島に昭和基地設置設営
			4　13	町民大学の開校式が行われる 会場:湯河原小学校 （毎月１回の講座が現在まで休みなく継続）	2・ 25	第１次岸信介内閣成立
			4・—	駅下区間整理事務所新築 （同事業開始は昭和30年１月）	8・ 27	東海村にある原子力研究所の原子炉、点火
			4・—	湯河原温泉送湯事業開始	10・ 1	5,000円札発行
			5　—	吉浜保育所開所	12・ 6	日ソ通商条約調印
			9・ 1	町営温泉250戸に送湯	12・ 11	100円硬貨発行
					この年	下期から「なべ底不況」
1958	昭和	33	1・—	里見弴 小津安二郎らと湯河原温泉（中西屋）に滞在、「彼岸花」を執筆	1・ 20	日本・インドネシア平和条約、賠償協定調印
			4・ 20	湯河原農協門川支所事務所完工	5・ 1	公立中学校の学級定員を50人と定める
					5・ 22	第28回衆議院議員選挙
					6・ 12	第２次岸信介内閣成立
					6・ 24	阿蘇山大爆発
					12・ 1	１万円札発行
					12・ 23	東京タワー完工式
					この年	県柑橘商業協同組合設立
					この年	ラジオ普及率 82.5% テレビ受信契約数 100万件突破
1959	昭和	34	4・ 1	ホーム図書館制度、始まる	1・ 1	メートル法施行（尺貫法廃止）
			4・ 30	第２回町長選挙及び町議会議員補欠選挙	4・ 10	皇太子結婚式
			4・—	大黒崎焼却所操業開始	4・ 20	東海道線新幹線起工式
			4・—	強風で 「見付の松」倒れる	6・ 2	第５回参議院議員選挙
			5・ 6	八亀武雄町長再任	6・ 16	箱根ロープウェイ開通
			9・ 3	真鶴有料道路開通式（根府川ー湯河原間）	9・ 12	ドル為替の自由化
			9・ 30	湯河原の電報電話局が湯河原町宮上14番地において業務を開始	9・ 26	伊勢湾台風
					この年	下期より「岩戸景気」始まる （～昭和36年）
1960	昭和	35			1・ 19	日米相互協力及び安全保障条約（新安保条約）など調印
			3・ 30	第２回町議会議員選挙（定数26）	2・ 18	第８回冬季オリンピック・スコーバレー大会開催（～28日）
			3・—	湯河原町新町建設計画改定	4・ 1	県・市町公文書を横書きに統一

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1960	昭和	35	10・　1	第9回国勢調査　湯河原町：1万9,743人	5・ 24	チリ地震津波で北海道南岸と三陸地方に大被害
			この年	鎌田正司、ロス・オリンピックに出場（バスケット）	7・ 19	第1次池田勇人内閣成立
					9・ 10	カラーテレビ本放送開始
					10・　1	第9回国勢調査
					12・　8	第2次池田勇人内閣成立
				湯河原町の町章	この年	電気冷蔵庫普及（流行語「三種の神器」）
1961	昭和	36	3・ 28	湯河原町の町章制定		
			4・―	内閣総理大臣裁定により、熱海市泉との合併不成立		
			5・　1	湯河原中学校・吉浜中学校統合し、湯河原中学校とする：初代校長鈴木将英		
			6・―	万葉会館（現観光会館）竣工	4・ 12	ソ連宇宙線ヴォストーク1号、地球一周飛行に成功
			8・―	湯河原温泉旅館組合、泉地区の組合員除外	8・ 13	東ドイツ政府、東西ベルリンの境界に壁を構築
			8・―	幕山浄水場完成	9・ 16	第2室戸台風
			12・末	吉浜上水道拡張工事完成		
1962	昭和	37	4・―	吉浜水道計量給水制採用	2・　1	東京都、世界初の1,000万人都市になる
			7・―	東海道新幹線南郷山トンネル貫通	8・ 12	堀江健一、小型ヨットで太平洋横断
			9・ 12	湯河原小学校、新校章制定	10・ 22	キューバ危機
			10・―	町役場庁舎（現第1庁舎）完成		
			11・ 13	湯河原小学校、開校90周年記念式典挙行し、開校90周年記念誌を発行		
1963	昭和	38	1・ 20	湯河原中学校完成	1・ 23	北陸地方に豪雪
			3・ 15	観光会館完成	11・　1	新1,000円札発行
			4　―	第3回町長選挙及び町議会補欠選挙（定数1）	11・ 22	ケネディ米大統領暗殺
			5・　6	第3代八亀武雄町長就任：3期目	11・ 23	日米間テレビ宇宙中継実験に成功
			9・　1	吉浜小学校体育館完成		
			10・ 28	湯河原郵便局新局舎で業務開始		
			10・ 31	湯河原中学校プラネタリウム完成		
			12・ 10	湯河原町商工会　発足		
1964	昭和	39	3・ 30	第3回町議会議員選挙（定数26）	2・　1	神奈川県人口400万人突破
			6・―	湯河原パークウェイ開通	3・ 23	日本鉄道建設公団発足
			7・ 14	湯河原小学校、プール完成	4・ 28	OECDに加盟
			7・ 28	海岸埋立工事竣工	6・ 16	「新潟地震」（M7．5）
			7・―	湯河原・吉浜両森林組合合併	8・	NHK小田原UHFテレビ局開局
			9・　9	温泉場から元湯通り一帯にて水害発生	10・　1	東海道新幹線開業
			10　6	東京オリンピック聖火リレーに体協参加	10・ 10	第18回オリンピック・東京大会開催（～24日）
					11・　8	パラリンピック東京大会開催

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1965	昭和	40	4・ 1	千暮公園内に児童遊園を設置し開放	5・ 28	「山一証券事件」
			4・ 7	第17回神奈川県植樹祭、湯河原町で開催	6・ 22	日韓基本条約調印
			4 15	湯河原町老人クラブ連合会発足（7団体）	8・ 3	「松代群発地震」
			7・ 22	箱根ターンパイク開通	10・ 1	第10回国勢調査 神奈川県人口　443万743人 世帯数　114万9842戸 人口増加率全国最高の28．7%
			8・ 5	湯河原中学校体育館完成	10・ 21	朝永振一郎、ノーベル物理学賞受賞発表
			10・ 1	第10回国勢調査 湯河原町：1万2,643人	この年	下期より「いざなぎ景気」始まる （～昭和45年）
			10・ 8	町民大学10周年記念講演会開催		
			10・ 15	湯河原一箱根大観山道路完成		
			12・—	福浦・吉浜・川堀・鍛冶屋の4農協が合併		
			12・ 20	南郷湧水利用化事業の第一次配水工事完成、配水		
1966	昭和	41	3・ 1	湯河原町中央農業協同組合発足	5・ 16	中国で文化大革命が始まる
			4・—	湯河原中学校に特殊学級開設	6・ 25	国民祝日法改正公布
			6・ 1	救急業務開始	7・ 4	閣議で新東京国際空港建設地を成田市三里塚に決定
			7・ 22	湯河原町が神奈川県温泉特別保護地区に設定、適用される		
			7・ 23	湯河原ロープウェイ開業式		
			9・ 25	湯河原小学校、台風26号により体育館の屋根が飛ぶなど被害甚大		
			12・ 7	宮上遊園地完成		
			12・ 27	湯河原の火葬場廃止		
			12 27	真鶴町火葬場完成火入式		
1967	昭和	42	3・—	白銀林道湯河原分開通	6・ 5	中東戦争始まる
			4・ 28	第4回町長選挙	7・ 1	欧州諸共同体（EC）発足
			5・—	第4代高杉茂利町長就任	8・ 8	東南アジア諸国連合結成
			5・ 5	万葉児童遊園竣工	9・ 1	四日市ぜんそく患者、大気汚染公害訴訟
			5・ 5	吉浜鶴舞児童館竣工	11・ 15	日米共同声明（小笠原、沖縄両返還）発表
			5・ 10	湯河原中学校創立20周年式典挙行		
			5・ 25	兎沢に町営水道が給水開始		
			7・ 1	宮上モータープールが県より町に移管される 8月25日より宮上駐車場として営業開始		
			この年 秋	入谷田児童公園完成		
1968	昭和	43	3・	天照山公園　御庭公園完成	1・ 9	アラブ石油輸出国機構結成
			3・ 30	第4回町議会議員選挙（定数26）	1・ 29	東大闘争始まる
			4・ 1	湯河原町消防本部並に湯河原町消防署発足	2・ 26	成田空港建設反対の農民・学生デモ、警官隊と衝突
			4・ 1	湯河原新道開通	4・ 22	横浜市、人口200万人突破

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1968	昭和	43	4・—	吉浜小学校特殊学級設置	5・ 8	イタイイタイ病、公害病に認定
			5・27	湯河原小学校体育館竣工	5・16	「十勝沖地震」(M7．8)
			9・16	湯河原小学校校庭に室伏勝蔵の頌徳の碑建立	6・25	小笠原諸島返還
			11・ 1	真鶴新道増設車線開通	7・ 1	郵便番号制発足
			11・ 1	小田原市・橘町・箱根町・真鶴町と「消防相互応援協定」締結	9・26	熊本・新潟の水俣病、公害病に認定
					10・17	川端康成、ノーベル文学賞受賞
					12・10	東京府中市で3億円強奪事件発生
1969	昭和	44	3・—	温泉送湯本管改良工事完成　真砂橋拡張 湯河原温泉広告塔(千歳通り)建設	1・18	機動隊、東大安田講堂などの占拠学生排除
			3・—	吉浜小学校校舎改築第1期工事完成	5・26	東名高速道路開通
			5・30	大阪観光案内所開所	7・20	アメリカ宇宙船アポロ11号、月面着陸
					10・29	厚生省、人工甘味料チクロの食品・医薬品への使用を禁止
1970	昭和	45	4・—	湯河原町総合計画策定	3・14	日本万国博覧会「EXPO'70」開会 ～9月13日
			5・11	九州観光案内所開設	3・31	日航機よど号、赤軍派が乗っ取る
			10・ 1	湯河原駅下土地区画整理事業完成	7・18	東京杉並区に光化学スモッグ発生
			10・10	農免道路整備事業完成	8・ 2	東京都内に歩行者天国誕生
			11・ 3	町村合併15周年記念式典挙行		
1971	昭和	46	1・	蔵町公園完成	6・17	沖縄返還協定に調印
			3・18	吉浜小学校校舎改築工事完成	8・16	ドルショック
			3・29	万葉公園、プールと噴水完成	8・26	円、変動相場制に移行
			4・ 1	湯河原(現おにわ)保育園開園	10・ 1	NHK、総合テレビを全カラー化
			4・ 1	湯河原町文化福祉会館完成	11・ 1	海老名・座間、市制施行
			4・25	第5回町長選挙	12・20	円切り上げ実施(1ドル＝308円)
			5・ 6	第5代高杉茂利町長就任：2期目		
			5・	湯河原中学校校庭に、夜間照明設備・観覧席・散水施設が完成		
			5・23	福浦小学校開校90周年記念式典挙行		
			11・11	湯河原商工会青年部創立		
			11・11	素鷲神社鹿島踊り、国選択無形民俗文化財に指定		
			12・—	中央土地区画整理事業認可		
1972	昭和	47	1・17	湯河原幼稚園火災で教室3室焼失	1・ 7	沖縄返還について日米共同声明発表
			3・—	桜木公園完成	2・ 2	横井正一、グアム島から帰国
			3・—	町営孫込住宅完成	2・ 3	第11回冬季オリンピック・札幌大会開催
			3・25	第5回町議会議員選挙(定数26)	2・19	「連合赤軍浅間山荘事件」
			3・—	駅前休憩所開所	3・21	奈良県高松塚古墳で極彩色壁画発見
			4・—	誘客観光塔完成	4・ 1	米の物価統制令適用廃止

素鷲神社鹿島踊り

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1972	昭和	47	4・10	菖蒲沢農道完成	4・ 1	川崎市、政令指定都市指定
			5・27	熱海市と「消防相互応援協定」締結	4・ 1	南足柄、市制施行
			6・—	駅前広場に上屋完成	5・13	大阪南区千日デパートビル火災
			8・24	川堀子ども遊園完成	5・15	沖縄施設権返還、沖縄県発足
					6・17	アメリカ、ウォーターゲート事件発覚
					8・26	第20回オリンピック・ミュンヘン大会開催
					9・29	田中首相、日中国交正常化共同声明調印
					11・ 5	中国政府寄贈のパンダ、上野動物公園で公開
1973	昭和	48	3・26	宮上会館完成	1・27	ベトナム和平協定調印
			8・ 1	統一夏祭りの名称を”やっさまつり”とする	2・15	円、変動相場制に移行
			10・—	吉浜小学校開校100周年記念式典挙行	4・12	国民の祝日法改正公布：振替休日実施
			12・25	都市計画法改正に基づく新用途地域指定決定	5・15	ドイツ民主共和国と国交樹立
					8・ 8	韓国新民党金大中誘拐事件発生
					10・ 6	第4次中東戦争勃発
					10・17	OPEC、原油供給削減決定 ：第1次オイルショック
					10・23	江崎玲於奈、ノーベル物理学賞決定
1974	昭和	49	5　1	町立たちばな保育園開園	3・12	小野田寛郎、ルバング島から帰国
			9・ 3	湯河原警部補派出所完成	5・ 9	「伊豆半島沖地震」（M6．8）
			11・ 1	湯河原駅、開業50周年記念式典挙行	8・30	東京丸の内三菱重工ビル爆破事件
			12・—	公共下水道事業着手　（管渠築造工事開始）	10・ 8	佐藤栄作、ノーベル平和賞決定
					10・13	サリドマイド訴訟和解成立
					10・14	三井物産会館爆破事件
					11・18	フォードアメリカ大統領、アメリカ大統領として初めて来日
1975	昭和	50	3・13	腸チフス集団発生　～8月1日	3・10	山陽新幹線開通
			3・13	八雲保育園開園	5・ 7	イギリス、エリザベス女王来日
			4・ 1	保育園名称変更　（おにわ保育園・まさご保育園・八雲保育園）	7・19	沖縄国際海洋博覧会開催
			4・18	東京観光案内所開所	10・ 1	神奈川県、緊急雇用対策を開始
			4・27	第6回町長選挙投開票		
			5・ 6	第6代杉山實町長就任		
			6・30	国鉄湯河原架道橋（宮下ガード）の拡幅工事並びに道路改良工事完成		
			7・25	「神奈川県下消防相互応援協定」締結		
			9・ 1	湯河原診療所完成		
1976	昭和	51	3・28	第6回町議会議員選挙（定数26）	1・31	日本初の五つ子誕生
			4・30	湯河原小学校開校100周年記念式典挙行	2・ 4	「ロッキード事件」

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1976	昭和	51	4　—	美化センター管理棟完成	4・　5	中国 「天安門事件」
			5　—	塵芥焼却施設完成	7・ 27	政府、10月から国家公務員の週休2日制試行決定
			6・　1	美化センター稼働開始	11・ 10	天皇在位50周年記念式典開催
			8・　7	広島県三原市と親善都市提携調印		
			12・—	城山公園完成		
1977	昭和	52	3・—	消防庁舎、福浦会館、鍛冶屋会館完成	4・ 18	東海地域判定会議発足
			4・—	みやのうえ保育園開園	8・　7	北海道有珠山、噴火開始
			4・ 11	三原市との親善都市締結記念植樹式	9・　5	王貞治、国民栄誉賞第1号を受賞
			10・　1	電子計算事業開始	9・ 28	日航機、ボンベイで日本赤軍によりハイジャックされる
			11・　7	湯河原中学校開校30周年式典挙行	11・ 30	アメリカ軍、立川基地全面返還
1978	昭和	53	3・　9	中央区民会館完成	1・ 14	「伊豆大島近海地震」
			3・ 31	湯河原中学校プール完成	4・　4	横浜スタジアム開場
			3　31	九州観光案内所閉所	5・ 20	新東京国際空港開港
			3・—	奥湯河原分署完成	6・ 12	「宮城県沖地震」
			4・—	幕山浄水場第5次拡張工事完成	8・ 12	日中平和友好条約調印
			4・—	町史編さん事業開始		
			5・　8	名古屋観光案内所開所		
			12・ 25	駅前歓迎塔完成		
1979	昭和	54	2・　1	ゆがわらUHFテレビ中継局開局	1・ 25	上越新幹線大清水トンネル貫通
			3・　1	町立図書館開館	3・ 28	アメリカ、スリーマイル島原子力発電所で大量の放射能漏れ
			3・ 29	川端公園完成	7・ 11	東名高速道路日本坂トンネル内で火災
			3・ 31	日本水道協会神奈川県支部と「災害相互応援に関する覚書」締結	12・ 12	国鉄、リニアモーターカー、時速504km達成
			4　1	子之神社格天井板絵他6点町指定文化財に指定		子之神社格天井板絵
			4・ 22	第7回町長選挙投開票		
			5・　6	第7代杉山實町長就任：2期目		
			8・ 14	万葉橋完成		
			11・ 17	町役場新庁舎（現第2庁舎）完成		
1980	昭和	55	1　—	故青木ヨシ氏の遺族からの2,000万円の寄附を基に「青木ヨシ顕彰育英奨学基金」設立	6・ 25	「伊豆半島東方沖群発地震」（M6．7）
			2・ 13	はしご付消防車配備	7・ 19	第22回オリンピック・モスクワ大会開会式 日本不参加
			3・ 23	第7回町議会議員選挙（定数26）	8・　3	全国的に冷夏、各地で低温記録更新
			4・　1	県立湯河原高等学校、仮校舎（プレハブ）にて開校	9・ 22	イラン・イラク戦争開始
			4・ 30	町立まさご保育園移設園舎完成	10・　1	新幹線「ひかり」小田原駅停車開始
			5・—	幕山公園完成		

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1980	昭和	55	6・ 5	城堀会館、新築完成		
			6・—	湯河原温泉歓迎塔・千歳橋歩道橋・藤木橋バス待合所完成		
			9 18	浄水センター建設工事着手		
			10・—	上野配水池築造工事完成		
1981	昭和	56	1・—	日本ジャンボ株式会社からの1,000万円の寄附を基に「湯河原町日本ジャンボ株式会社創業記念育英奨学基金」を設立	3・ 20	神戸市主催ポートピア’81開幕
			3・ 30	宮下会館完成	7・ 1	神奈川県人口、700万人突破
			4・—	土肥実平公銅像建立	10・ 1	内閣、常用漢字表決定
			5・ 24	福浦小学校開校100周年記念式典挙行	10・ 19	福井謙一、ノーベル化学賞決定
			7・ 1	万葉公園遊歩道完成		
			7・—	千暮公園完成		
			10・ 1	特急「踊り子号」運行開始 全列車湯河原駅停車		
			11・ 5	星ヶ山公園完成		
			12・—	門川会館完成・中河原橋架替工事完成		県立湯河原高等学校
1982	昭和	57	3・—	孫込配水池築造工事完成	2・ 8	ホテルニュージャパン火災
			4・ 1	湯河原高校、新校舎に移転	4・ 1	500円硬貨発行
			5・ 24	真砂橋完成	6・ 23	東北新幹線開業
			7・ 21	福浦海浜プール完成	7・ 23	国際捕鯨委員会、商業捕鯨の3年後全面禁止を可決
					11・ 15	上越新幹線開業
1983	昭和	58	2・—	駅前駐輪場設置	4・ 15	東京ディズニーランド開園
			3・ 12	吉浜小学校体育館完成	5・ 26	「日本海中部地震」（M7．7） 津波被害甚大
			4・ 24	第8回町長選挙及び町議会議員補欠選挙	6・ 26	第13回参議院議員選挙、 全国区で初の比例代表制採用
			5・ 6	第8代小澤忠一町長就任	9・ 1	大韓航空機撃墜事件　:ソ連軍機、領空内に侵入した大韓航空機を撃墜
			7・—	川堀会館完成	10・ 3	三宅島大噴火
			9・—	防災行政無線放送施設完成	10・ 12	東京地裁、ロッキード事件丸紅ルート判決公判
			10・ 14	湯河原町運動公園完成	10・ 14	国内初の「試験管ベビー」出生
			11・—	広河原浄水場沈砂池築造工事完成		
1984	昭和	59	2・ 13	吉浜小学校プール完成	2・ 17	小田原地方大雪：積雪25cm
			3・ 25	第8回町議会議員選挙（定数26）	3・ 14	小田原地方降雪：積雪19.5cm
			3・ 30	「湯河原町史」第一巻発刊	3・ 18	グリコ・森永事件、始まる
			6・ 24	湯河原観光会館増改築竣工	7・ 28	第23回オリンピック・ロサンゼルス大会開催
					10・ 31	インディラ・ガンディー　インド首相暗殺
					11・ 1	日銀、新札発行

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1985	昭和	60	4・ 1	保健センター開設	3・ 17	「科学万博　つくば’85」開幕
			4・—	浄水センター供用開始：公共下水道供用開始	3・ 22	厚生省、エイズの日本上陸を公表
			4・ 29	湯河原海浜公園完成	3・ 25	国鉄、オレンジカード発売：先ず首都圏で
			6 ・—	温泉場道路整備事業事業認可	4・ 1	日本たばこ産業㈱・NTT　開業
			9・ 30	「湯河原町史」第二巻発刊	6・ 1	改正男女雇用機会均等法公布
			10・ 1	第14回国勢調査 湯河原町：2万6,027人	8・ 12	日本航空の羽田発大阪行ジャンボ機、群馬県御巣鷹山中に墜落
					8・ 15	中曽根首相、首相として初めて靖国神社公式参拝
					9・ 1	道路交通法改正公布：シートベルト着用義務付け
					12・ 27	国民の祝日法、改正公布：５月４日を休日
1986	昭和	61	3・ 1	町村合併30周年記念式典挙行		 湯河原町、町の木・町の花・町の鳥
			3・ 1	湯河原町民憲章制定・町の木，町の花，町の鳥、制定		
			4・ 1	住民課業務のオンライン化		
			4・ 26	広崎公園完成		
			4・—	湯河原21世紀計画（前期基本計画）策定		
			6・ 16	湯河原駅前観光案内所開設	1・ 28	アメリカ、スペースシャトル・チャレンジャー事故
			6・ 25	湯河原海浜公園プール施設完成	2・ 13	「撚糸工連事件」
			8・ 27	第6回関東甲信越静ゲートボール大会が湯河原中学校で開催	4・ 26	ソ連チェルノブイリ原子力発電所で大事故、多量の放射能漏れ
			9・ 4	町道権現山線開通	10・—	「伊豆半島東方沖群発地震」
			11・ 12	第8分団　（川堀）ポンプ車配属	11・ 21	三原山大噴火
			12　23	東台福浦小学校と校名決定		
1987	昭和	62	3・ 27	東台福浦小学校完成	2・ 9	NTT株上場
			3・ 28	最終処分場完成	4・ 1	JRグループ各社開業
			3・ 31	「湯河原町史」第三巻発刊	5・—	「伊豆半島東方沖群発地震」
			4・ 1	湯河原新道（オレンジライン）、県道路公社から町に移管　町道になる	10・ 12	利根川進、ノーベル医学生理学賞決定
			4・—	東台福浦小学校開校（福浦小学校廃校）	10・ 19	ニューヨーク株式市場大暴落　：ブラックマンデー
			4　26	第8回町長選挙（無投票）及び町議会議員補欠選挙（定員３）	10・ 20	東証平均株価暴落
			5　6	小澤忠一町長再任：2期目 （～平成3年5月5日）	11・ 29	大韓航空機爆破事件　：大韓航空機、インド洋ベンガル湾上空で爆破される
			7・ 1	ませぐち公園完成		
			12・ 19	川堀歩道トンネル完成		
1988	昭和	63	2・ 5	森林火災（湯河原、真鶴、小田原）	2・ 14	冬季オリンピック・カルガリー大会開催
			2・	幕山浄水場増設工事完成	3・ 13	青函トンネル開通
			2・ 22	東台福浦小学校校章制定	4・ 1	マル優制度廃止

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1988	昭和	63	3・26	東台福浦小学校プール完成	4・10	瀬戸大橋開通
			3・27	第9回町議会議員選挙	7・23	「なだしお事故」発生
			4・11	町民憲章碑完成	7・29	大学入試改革協議会、共通一次に代わる新テストを「大学入試センター試験」と命名
			4・12	小田原市・真鶴町と「消防相互応援協定」締結	8・20	イラン・イラク戦争停戦
			4・27	「こごめの湯」完成	9・17	第24回オリンピック・ソウル大会開催
			6・29	海浜公園完成	9・19	昭和天皇陛下、吐血・下血
			7・25	若宮公園完成　・海浜公園完成		
			12・1	町立診療所閉鎖		
1989	昭和	64			1・7	昭和天皇崩御
1989	平成	1	3・25	温泉場道路完成（観光会館～県道75号線と千歳通り2号線との交差点：790m）	1・8	平成に改元
			4・1	ヘルシープラザ開館	2・4	金融機関、完全週休2日制実施
			4・2	宮上公園開放	2・24	昭和天皇大喪の礼
			5・—	湯河原中学校グラウンド整備工事完成	3・2	佐賀県吉野ヶ里遺跡発見
			6・10	土曜閉庁導入実施	3・25	YES’89横浜博覧会開催
			8・31	吉浜小学校パソコン教室完成	4・1	消費税3%導入
			10・1	デイサービス事業開始	6・3	「伊豆半島東方沖群発地震」（M5．5）
			10・25	湯河原小学校体育館改修工事完了	6・4	北京、「天安門事件」
			12・12	県西地域2市8町、「県西地域広域市町村圏水道緊急連絡管接続等相互応援の推進に関する基本協定」締結	7・13	伊東市沖合手石島付近の海底で噴火
			12・20	田方地区消防組合と「消防相互応援協定」締結	11・9	ベルリンの壁崩壊
1990	平成	2	4・24	町立図書館増改築工事完成	4・1	国際花と緑の博覧会開催
			4・—	ごみの完全分別収集開始	4・29	サーフ’90開幕
			5・30	粗大ごみ処理施設完成	10・3	東西ドイツ統一
			6・12	さくらんぼ公園完成	11・17	長崎雲仙普賢岳噴火
			9・—	町債管理基金設置		
			10・1	第15回国勢調査 湯河原町：2万7,717人		
1991	平成	3	4・1	湯河原21世紀計画（中期基本計画）策定	1・17	「湾岸戦争」開始
			4・1	湯河原町資源集団回収奨励事業開始	4・6	「湾岸戦争」終了
			4・21	第9回町長選挙	6・3	長崎雲仙普賢岳、大規模火砕流発生
			5・6	第10代丸山孝夫町長就任	12・21	欧州同盟、EU発足決定
			6・1	亀ヶ原公園開園	12・25	ゴルバチョフ大統領辞任・ロシア最高議会、国名をロシア連邦に変更
			6・5	㈱湯河原総合情報センター設立		
1992	平成	4	3・22	第10回町議会議員選挙	2・2	大雪、県内交通網ストップ。箱根38cm積雪
			3・25	消防温泉場詰所落成	7・1	山形ミニ新幹線開業

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1992	平成	4	4・ 1	湯河原町教育文化施設建設基金設置	7・ 25	第25回オリンピック・バルセロナ大会開催
			6・—	議会だより「議会ゆがわら」創刊	9・ 12	日本人初宇宙飛行士毛利衛さんが乗るスペースシャトル「エンデバー」打ち上げ
			8・ 11	湯河原町生きがい事業団設立		
1993	平成	5	2・ 6	完全土曜閉庁実施	1・ 15	「釧路沖地震」（M7．5）
			3・—	大阪・名古屋の観光案内所閉所	4・ 28	長崎雲仙・普賢岳、大規模土石流発生
			4・—	熱海市泉地区の救急業務を熱海市より受託	5・ 15	プロサッカーリーグ「Jリーグ」開幕
			9・ 12	第1回湯河原町文化フェスティバル開催	6・ 1	伊豆半島東方沖地震頻発
			10・ 31	第1回湯河原ジュニア・アーチェリー大会開	6・ 9	皇太子結婚の儀
			12・—	町役場第3庁舎完成	7・ 12	「北海道南西沖地震」（M7．8）
			12・—	高規格救急車導入	8・ 9	細川護熙内閣成立：自民党38年間の政権に幕
1994	平成	6	3・—	広河原浄水場整備工事完成	6・ 28	「松本サリン事件」
			4・ 8	兎沢大橋竣工	6・ 30	村山富一内閣成立
			7・—	衛生組合廃木材焼却施設完成	7・ 16	青森市三内丸山遺跡で大量の土器や木柱発見
			9・—	役場第2駐車場完成	9・ 4	関西国際空港開港
			11・ 2	駅前観光スポット「大型LED表示盤」完成	10・ 4	「北海道東方沖地震」（M8．2）
			11・ 6	県西地域2市8町の図書館広域利用開始	10・ 13	大江健三郎、ノーベル文学賞決定
			11・ 28	大韓民国中原郡（現忠州市）と姉妹都市提携	11・ 1	湘南ナンバー登録開始
					11・ 25	震度4の地震、箱根ロープウェイで500人宙吊りになる
1995	平成	7	1・ 18	阪神・淡路大震災被災地へ町消防署救助隊が出動	1・ 17	「阪神・淡路大震災」（M7．3）
			2・ 1	熱海市と「地震災害時の相互応援に関する協定」締結	3・ 20	東京、「地下鉄サリン事件」発生
			2・ 18	湯河原中央土地区画整理事業、町名地番変更実施	3・ 22	西湘バイパス改築工事部分開通
			4，23	第10回町長選挙	5・ 16	オウム真理教代表麻原彰晃　（本名松本智津夫）を殺人罪容疑等で逮捕
			5・ 6	第11代米岡幸男町長就任	10・ 11	ボスニア紛争、停戦発効
			5・ 10	門川農業公園中央管理施設完成		
			7・ 11	こごめの湯、露天風呂・サウナ開設		
			8・ 8	湯河原町戦後50周年記念式典		
			10・ 1	第16回国勢調査 湯河原町：2万8,389人		
			11・ 12	第1回町民アーチェリー大会開催		
1996	平成	8	1・ 31	浄水センター下水道汚泥焼却施設完成	7・ 19	第26回オリンピック・アトランタ大会開催
			2・ 18	幕山梅林一般公開		 幕山梅林
			2・ 23	県西地域2市8町、「災害時における相互救援に関する協定書」に調印		
			2・ 29	町内管工事協会と「災害応急工事に関する業務協定」締結		

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1996	平成	8	3・ 3	町村合併40周年記念碑除幕式・幕山公園開設記念植樹　開催		
			3・24	第11回町議会議員選挙		
			4・ 1	湯河原21世紀計画（後期基本計画）策定		
			4・ 1	湯河原町在宅介護支援センター開設		
			7・ 1	新おにわ保育園開園	12・17	「在ペルー日本大使公邸占拠事件」
			7・ 1	救命情報システム運用開始		
1997	平成	9	3・ 2	幕山公園管理棟2階に「民話の館」開設 ：公園整備完了	3・ 2	「伊豆半島東方沖群発地震」
			3・31	湯河原町高齢者医療助成制度廃止	3・30	三井三池炭鉱閉山
			4・ 1	母子保健サービス等が保健所から町立保健センターに移管	4・ 1	消費税5%になる
			4・30	湯河原中学校開校50周年式典挙行	10・ 1	長野新幹線「あさま」開業
			6・ 1	日本水道協会神奈川県支部と「災害相互応援に関する覚書」締結	11・22	山一証券、経営破たん
			7・ 2	新ごみ焼却施設完成	12・18	東京湾アクアライン開通
			7・28	湯河原総合運動公園・兎沢道路完成祝賀式挙行		
			8・ 9	国体リハーサル大会		
			8・—	湯河原町消防署、消防2輪機動隊配置		
			9・27	町ホームページ開設		
			11・—	「行財政改革実施計画」策定		
1998	平成	10	3・30	長野県南安曇郡奈川村と友好親善提携の調印式を行う	1・ 8	県内大雪
			3・—	東京観光案内所閉所	2・ 7	冬季オリンピック・長野大会開催
			4・—	湯河原町総合運動公園完成	3・ 5	長野冬季パラリンピック開催
			5・11	教育委員会・社会福祉協議会・生きがい事業団、黒須病院跡地に事務室移転		
			9・30	湯河原郵便局・町内特定郵便局と「災害時における湯河原町と湯河原郵便局等の間の協力に関する覚書」締結	4・ 5	明石海峡大橋開通
			10・ 1	湯河原ゆかりの美術館開館	8・—	全国的に病原性大腸菌O-157による食中毒が多発
			10・ 1	消防本部、奥湯河原分署に高度救命処置資機材搭載救急車を配備	9・14	65歳以上の人口が2,000万人を超える
			10・12	新福浦立体開通		
			10・25	かながわ・ゆめ国体、アーチェリー競技会開催：～27日		
			11・13	湯河原町・オーストラリア・ポートスティーブンス市、「姉妹都市提携」調印		
			11・—	城山のアジサイ植樹式		
1999	平成	11	4・—	福浦幼稚園、東台福浦小学校に併設	9・30	茨城県東海村のJCO東海事業所で国内初の臨界事故
			4・—	川堀公園完成		

ごみ焼却施設

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
1999	平成	11	4・25	第12回町長選挙・町議会議員補欠選挙投開票		
			4・29	「湯河原さつきの郷」完成し植樹祭		
			5・6	第12代米岡幸男町長就任：2期目		
			5・26	湯河原美術協会、創立50周年記念展開催・記念誌発行		
			6・—	湯河原町総合運動公園の愛称を『湯河原ゆめ公園』に決定		湯河原さつきの郷
			6・—	全国京都会議加盟		
			7・1	湯河原町と門川簡易水道組合との統合に関する協定書調印		
			8・8	県民ジュニア・アーチェリー大会開催		
			10・30	駅前ポケットパーク完成・京都フェスタ開催		
2000	平成	12	3・21	図書館にコンピュータシステム導入	3・31	北海道有珠山噴火
			3・19	第12回町議会議員選挙	4・1	介護保険制度スタート
			7・1	コミュニティバス運行開始	5・3	佐賀西鉄「バスジャック事件」
			8・31	東台福浦小学校、パソコンシステム更新事業完了	7・8	三宅島の雄山噴火
			9・11	真鶴斎場、新火葬場「真鶴聖苑」完成	7・21	沖縄県名護市でサミット開催
			10・1	第17回国勢調査 湯河原町：2万7,721人	8・1	新500円硬貨発行
			11・13	西湘信用金庫、さがみ信用金庫に事業譲渡	9・15	第27回オリンピック・シドニー大会開催
			12・5	「独歩の湯」完成	10・10	白川英樹、ノーベル化学賞受賞決定
					12・30	東京・世田谷一家殺害事件
2001	平成	13	1・1	「独歩の湯」開園		
			1・—	「ゆがわら2001プラン基本構想」策定		
			1・26	富士箱根伊豆交流圏市町村サミット開催		
			2・1	テレホンサービス開始		
			3・7	湯河原温泉旅館協同組合と「災害時における避難収容施設等の提供に関する覚書」締結		
			4・2	FM熱海湯河原、「湯河原サテライトスタジオ」開局		
			4・—	森下公園完成	4・26	小泉純一郎内閣成立
			7・1	町ホームページから『各種申請書、届出書』等の配信サービス開始	9・1	新宿雑居ビル火災、44人死亡
			9・27	観光ボランティア発足	9・11	アメリカ「同時多発テロ事件」
			9・27	神奈川県葬祭業協同組足・社団法人全国霊柩自動車協同組合と「災害時における霊柩自動車・棺等葬祭用品の供給等の協力に関する協定」締結	10・10	野衣良治、ノーベル化学賞受賞決定
			11・1	熱海市と真鶴町の公立施設の相互利用開始	10・11	アメリカ「炭疽菌事件」
			11・3	第1回湯河原文学賞発表	10・31	日本総人口1億2,692万人
			11・19	「西さがみ連邦共和国」建国		

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
2002	平成	14	1・13	「成人のつどい」爆破予告で会場変更	2・8	冬季オリンピック ソルトレーク大会開催
			3・20	㈱エフエム熱海湯河原と「災害時における緊急情報放送に関する協定」締結	5・21	京都議定書批准承認
			4・21	毎月第3日曜日の「家庭の日」に町立施設の無料開放を実施	5・31	2002FIFAワールドカップ開幕 :日本韓国共同開催
			4・23	「四季彩のまち出前講座」開始	10・8	小柴昌俊、ノーベル物理学賞受賞決定
			5・7	分庁舎（旧西相信用金庫本店）	10・9	田中耕一、ノーベル化学賞受賞決定
			8・1	子育てサロン開設	10・15	北朝鮮に「拉致」の5人帰国
			8・—	「外国籍住民相談窓口」開設		
			9・10	真鶴町湯河原町合併推進協議会設立		
			11・22	湯河原ハイヤー組合と「災害時におけるタクシー無線通信等の協力に関する協定」締結		
			11・22	福浦漁業協同組合と「災害時における漁業用無線通信等の協力に関する協定」締結		
2003	平成	15	1・27	「湯河原まちづくりボランティア協会」設立	4・1	日本郵政公社発足
			3・8	「紅葉の郷づくり」植樹祭	6・1	郵政事業への民間資本の参入開始
			3・17	湯河原駅エレベーター・エスカレータ完成	10・10	日本産トキ絶滅
			4・1	湯河原・真鶴町・熱海市の民間施設の町民・市民割引での相互利用開始		
			4・27	第13回湯河原町長選挙及び湯河原町議会議員補欠選挙投開票		
			5・6	第13代米岡幸男町長就任：3期目		
			7・1	ごみ収集作業の民間業者への委託一部開始		
			7・5	資料館「光風荘」開館		
			7・—	ゆり公園完成		
			8・25	住民基本台帳ネットワークシステム第2次サービス開始		
			9・1	広報ゆがわら500号発行		
			9・6	「巨木を語ろう全国フォーラム」開催		
			9・19	真鶴町湯河原町合併協議会設置		
			11・1	富山県中新川郡立山町と友好親善提携調印		
2004	平成	16	3・12	駅前エレベータ完成	3・13	九州新幹線（新八代駅一鹿児島中央駅間）開業
			3・21	第13回町議会議員選挙投開票	8・13	第28回オリンピック・アテネ大会開催
			4・1	町内小学校・中学校、「学校二学期制」導入	10・23	「新潟県中越地震」（M6．8）
			4・—	合併に関する住民意識調査実施	12・22	日本国内で初めて鳥インフルエンザ感染者発生
			5・10	役場窓口取次サービス「一申多助」開始	12・26	「スマトラ沖地震」（M9．1） インド洋沿岸で大津波被害
			7・7	「ゆがわら・わんぱく広場」開設		
			9・—	真鶴町湯河原町合併協議会解散		
			9・27	湯河原駅開業80周年記念行事開催		

資料館「光風荘」

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
2004	平成	16	10・ 9	台風22号による土砂被害甚大：町観測史上最大の時間雨量観測		
2005	平成	17	3・13	湯河原町町村合併50周年記念式典挙行	2・17	中部国際空港開港
			3・13	西村京太郎氏に「名誉町民」称号贈呈	3・25	2005年日本国際博覧会「愛・地球博（愛知万博）」開幕　～9/25
			3・13	笹みどり、五月みどり、船越栄一郎　3名を「湯河原観光大使」に任命	4・25	「JR福知山線脱線事故」発生、死者107人負傷者562人：JR発足後最悪の事故
			3・31	長野県奈川村が松本市に編入合併されたため友好親善提携を終了	8・16	「8.16宮城県沖地震」（M7．2）
			4・ 1	湯河原町介護サービスセンター開設	8・29	アメリカ、過去最大級のハリケーン「カトリーナ」上陸、死者1,000人超
			5・16	町村合併50周年記念事業「湯河原温泉宅配サービス」開始		
			7・—	「神奈川電子自治体共同運営サービス」にて申請・届出のオンラインサービスの開始		
			8・25	社会福祉法人湯河原福祉会（湯河原ホーム）と「災害時における避難収容施設の使用に関する協定」締結		
			8・26	財団法人生活保険協会（ニューライフ湯河原）と「災害時における避難収容施設の使用に関する協定」締結		
			9・ 1	湯河原町、景観法による景観行政団体になる		
			10・ 1	第18回国勢調査 湯河原町：2万7,430人		
			10・—	町、入札参加資格認定申請をかながわ電子入札共同システムにて運用開始		ゆがわら2001プラン
2006	平成	18	1・28	梅園、入園有料化	2・23	冬季オリンピック・トリノ大会、開催：23日フィギュアスケート女子で荒川静香が金メダルを獲得
			2・23	全国梅サミット協議会加盟10市3町により「災害時相互応援協定」を締結	3・20	相模原市、津久井町、相模湖町が合併し新「相模原市」誕生
			3・—	「ゆがわら2001プラン」後期基本計画策定	5・ 1	神奈川県人口が900万人を超え全国2位
			10・ 1	湯河原ゆかりの美術館が町立湯河原美術館としてリニューアルオープン	6・ 9	2006FIFAワールドカップ・ドイツ大会開幕
			10・13	温泉モニュメント「月の湯」完成	10・ 9	北朝鮮、初めて地下核実験実施
			11・16	構造改革特別区域「ゆがわら食の専門人材育成特区」計画認定される		
			11・23	池峰「もみじの郷」一般公開開始		
			11・30	富士箱根伊豆交流圏市町村ネットワーク会構成市町村災害時相互応援に関する協定」締結		
			12・15	「冬ほたるIN万葉」開催		
2007	平成	19	3・—	消防庁舎耐震補強工事完了	2・	約5,000万件の年金記録が該当者不明であることが判明
			3・—	「湯河原町子ども読書活動推進計画」策定	3・11	相模原市、城山町と藤野町を編入合併
			4・ 1	消防本部、高機能消防指令センター本運用開始	3・25	「能登半島沖地震」（M6．9）
			4・ 1	湯河原町議会基本条例施行	7・16	「新潟中越沖地震」（M6．8）

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
2007	平成	19	4・ 1	湯河原町自治基本条例施行	7・ 26	「サブプライムローン」の焦げ付き急増を背景にニューヨーク株式市場平均株価急落
			4・ 1	「湯河原町国民保護計画」公表	7・ 29	第21回参議院選挙、与党自由民主党歴史的惨敗・衆参の第一党が異なる「ねじれ国会」出現
			4・ 1	「かながわ電子入札共同システム」による電子入札開始	10・ 1	日本郵政グループ発足
			4・ 22	第14回湯河原町長選挙及び湯河原町議会議員補欠選挙		
			5・ 6	冨田幸宏第14代町長就任		
			5・ 11	「食の大学院大学」設立断念		
			6・ 27	湯河原町建設振興会と「災害応急工事に関する業務協定」締結		
			9・ 4	(株)メディカルジャパン・(財)湯河原ゆうゆうの里・社会福祉法人湯河原福祉会と「災害時における避難収容施設の使用に関する協定」締結		
			11・ 12	湯河原ロイヤルハイツ管理組合法人と「津波発生時における一時避難施設としての使用に関する協定」締結		
2008	平成	20	3・ 13	菜畑林道竣工	5・ 12	中国・四川省で大地震発生
			3・—	湯河原テレビ中継局からデジタル放送開始	6・ 8	東京・秋葉原で無差別殺人事件発生
			3・ 23	第14回湯河原町議会議員選挙	6・ 14	「岩手・宮城内陸地震」(M7．2)
			3・ 31	神奈川県立湯河原高等学校、閉校 (湯河原高校での呼称は完校) :小田原総合ビジネス高校へ再編統合	8・ 8	第29回オリンピック・北京大会開催
			4・ 1	町施設 (ヘルシープラザ・こごめの湯・観光会館・海浜公園テニスコート)の指定管理者制度導入	9・ 15	アメリカ証券会社「リーマン・ブラザーズ」経営破綻
			4・—	地籍調査事業開始	10・ 7	南部陽一郎・小林誠・益川敏英、ノーベル物理学賞受賞決定
			5・ 1	「ゆがわらメールマガジン」配信開始	10・ 8	下村脩、ノーベル化学賞受賞決定
			6・ 1	電話予約・電子申請予約の住民票の写し・印鑑登録証明書の交付時間延長と休日交付開始		
			6・—	「湯河原町鳥獣被害防止計画」公表		
2009	平成	21	3・ 24	温泉場地区防災公園開園	1・ 22	バラク・オバマ、第44代アメリカ大統領就任
			3・—	「第4期介護保険事業計画」策定	3・ 28	地方の高速道路で土日祝日、「千円で乗り放題」が開始
			5・ 3	「独歩の湯」来場者100万人達成	5・ 1	「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」(裁判員裁判制度)施行
			6・ 24	ツクイ湯河原サンフラワーと「災害時における避難収容施設の使用に関する協定」締結	5・ 9	新型インフルエンザ日本上陸、年末までに死者100人超
			7・ 1	湯河原町建設業協力組合と「災害応急工事に関する業務協定」締結	8・ 30	第45回衆議院議員総選挙投開票、民主党大勝・自由民主党歴史的大敗
			7・ 7	社会福祉法人湯河原町社会福祉協議会と「災害時における相互協力に関する協定」締結	9・ 16	鳩山由紀夫第93代内閣総理大臣に就任:「政権交代」
			8・ 31	旧湯河原高等学校校舎に湯河原中学校移転		

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
2009	平成	21	9・ 1	海浜公園駐車場通年有料化実施		
			11・18	神奈川県市町村職員共済組合と「大規模災害時における住民等のための協力に関する協定」締結		
2010	平成	22	2・ 6	全国植樹祭2010かながわ（サテライト湯河原）	4・ 1	相模原市が政令指定都市に移行
			3・ 1	湯河原町非常勤職員登録制度開始	4・23	農林水産省、宮崎県で被害が拡大している家畜伝染病を「口蹄疫」と断定
			3・31	「全国梅サミット協議会加盟市町災害時相互応援協定」締結	5・ 2	ギリシャの財政危機からヨーロッパ全体に財政危機が波及
			4・ 1	「神奈川県西部広域行政協議会」設立	6・ 4	菅直人、第94代内閣総理大臣に就任
			4・ 1	「独歩の湯」に「指定管理者制度」を導入	6・13	小惑星探査機「はやぶさ」が7年ぶりに地球に帰還。小惑星「イトカワ」の微粒子が回収された
			6・17	消防本部、統合型位置情報通知システム導入	7・11	第22回参議院選挙で民主党大敗。衆参両院で多数派が異なるねじれ国会に
			6・—	「湯河原町耐震改修促進計画」策定	9・ 7	尖閣諸島で中国漁船が巡視船に衝突
			9・ 1	湯河原町地域福祉センター設置	10・ 6	根岸英一アメリカバデュー大学特別教授と鈴木章北海道大学名誉教授がノーベル化学賞受賞決定
			10・ 1	第19回国勢調査 湯河原町2万6,848人		観測史上最高の猛暑。熱中症多発で死者も
			11・ 1	旧中学校体育館を「湯河原町民体育館」として開放		
			11・22	「湯河原温泉まちづくり協議会」設立		
2011	平成	23	2・ 1	湯河原町ホームページリニューアル	2・22	ニュージーランド・クライストチャーチ市付近で直下型地震発生、日本人28人死亡
			2・20	「こごめの湯」、入場者300万人達成	3・11	「東北地方太平洋沖地震」（M9．0） ：東日本大震災発生
			3・—	千歳通り2号線遊歩道整備完了	3・11	福島第一原子力発電所事故発生
			4・ 1	新総合計画「ゆがわら2011プラン」施行	3・14	東京電力、計画停電を初めて実施：～28日
			4・24	第15回湯河原町長選挙	7・17	第6回FIFA女子ワールドカップ・ドイツ大会で日本代表「なでしこジャパン」が初優勝
			5・ 6	冨田幸宏第15代町長就任：2期目	7・23	中国・浙江省で高速鉄道の追突事故発生
			5・19	第1回議会報告会開催	8・30	野田佳彦、第95代内閣総理大臣に就任
			5・26	「熱海・箱根・湯河原広域行政推進協議会」設立	10・31	円、戦後最高値更新、1ドル＝75円32銭
			6・—	「湯河原町防災基金」設置		
			7・—	「ゆがわら暮らしのガイドブック」全世帯向けに配布開始		
			11・21	戸籍のコンピュータ処理開始		
			12・—	湯河原マスコットキャラクター「ゆがわら戦隊ゆたぽんファイブ」発表		
2012	平成	24	2・13	熱海市と「水道緊急連絡管接続等相互給水に関する協定」締結	5・20	金環日食、国内で25年ぶりに観測
			3・18	第15回湯河原町議会議員選挙	5・22	東京スカイツリー開業
			3・—	第5期介護保険事業計画」策定	8・29～	ロンドン五輪・パラリンピックでメダル多数

2012年

西暦	元号	年	月　日	湯河原町に関わる出来事	月　日	国内　・　国際
2012	平成	24	6・15	新湯河原歓迎塔「四季彩の塔」完成	9・11	尖閣諸島を国有化
			7・10	町立図書館、図書館システムリニューアル	10・8	山中伸弥教授にノーベル医学生理学賞決定
			7・10	町立図書館、インターネットからの資料検索開始・インターネットコーナー・無線LANフリースポット設置	12・16	第46回衆議院議員総選挙投開票。自由民主党圧勝
			8・—	ウェブサイト「旅のとびら湯河原・真鶴」開設		
			9・24	箱根・小田原・湯河原・真鶴の1市3町に広がる箱根火山周辺地域が、「箱根ジオパーク」に認定される		
			12・1	湯河原海岸新崎川河口付近に神奈川県が整備を進めていた「津波情報盤」が稼働開始		